

構造設計標準仕様

適用は ● 印を記入する。

1. 建築物の構造内容

- (1) 工事名称 (仮称)練馬区関町北1MPJ 新築工事
建築場所 東京都練馬区関町北1丁目94-1
- (2) 工事種別 新築 増築 増改築 改築
- (3) 構造種別
木造 (W) 補強コンクリートブロック造 (CB) 鉄骨造 (S)
鉄筋コンクリート造 (RC) 壁式鉄筋コンクリート造 (WRC)
鉄骨鉄筋コンクリート造 (SRC) 壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造 (WPRC)
プレキャスト鉄筋コンクリート造 (PRC)
- (4) 階数
地下 一階 地上 4階 塔屋 一階
- (5) 主要用途 共同住宅
- (6) 屋上付属物
高架水槽 kN キュービクル kN 広告塔 煙突
- (7) 特別な荷重
エレベータ 人乗(ロープ式 油圧式) リフト kN ホイスト kN
倉庫積載床用 N/m² 受水槽 kN
- (8) 付帯工事
門扉 擁壁
- (9) 増築計画 有 () 無
- (10) 構造計算ルート X方向ルート 1 -() Y方向ルート 1 -()

2. 使用構造材料

適用箇所	種類	設計基準強度 F _c =N/mm ²	品質管理強度 F _c =N/mm ²	スランブ cm	備考
捨コンクリート	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	18	18	15	
土間コンクリート	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	21	21	18	
基礎、基礎梁	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	24	24	18	
柱、梁、床、壁	<input checked="" type="checkbox"/> 普通、 <input type="checkbox"/> 軽量	24	24	18	
デッキ上	<input type="checkbox"/> 普通、 <input type="checkbox"/> 軽量				
押入コンクリート	<input type="checkbox"/> 普通、 <input type="checkbox"/> 軽量				
混和剤					

- (2) コンクリートブロック (CB)
A種 B種 C種 厚 100、 120、 150、 190、

種類	径	使用箇所	継手	
			種類	継手
異形鉄筋	D16以下	壁、壁梁、床、基礎	<input checked="" type="checkbox"/> SD295	重ね継手
			<input type="checkbox"/>	
高強度せん断補強筋	D19以上	基礎、壁	<input checked="" type="checkbox"/> SD345	ガス圧接継手
			<input type="checkbox"/>	
丸鋼				特殊継手
溶接金網 (JIS G 3551)				()

=(4) 鉄骨=

種類	使用箇所	現場溶接	備考
<input type="checkbox"/> SS400 <input type="checkbox"/> SM400 <input type="checkbox"/> SN400A、B、C		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> STKR400 <input type="checkbox"/> STKR490		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> BCR295 <input type="checkbox"/> BCP235		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> SM490A <input type="checkbox"/> SN490B、C		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> SSC400		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	

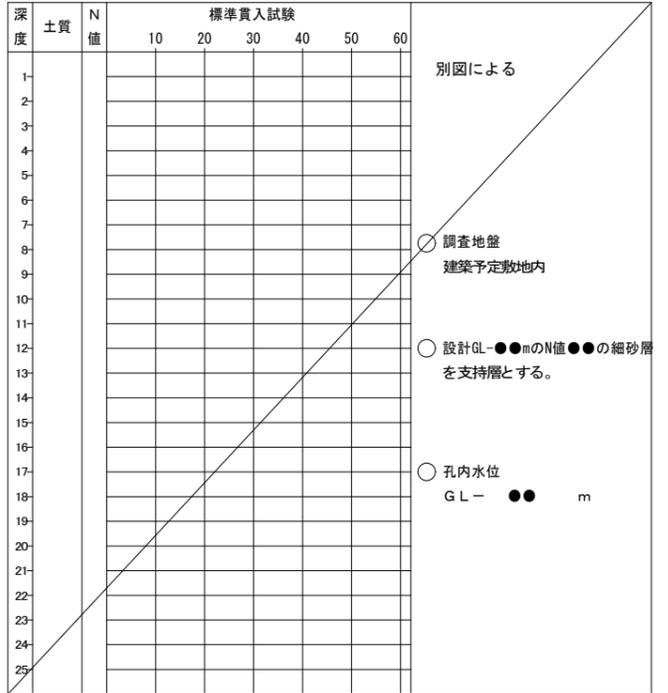
○使用箇所の詳細については別途図示とする。

- =(5) ボルト=
- 高力ボルト
普通: F10T 特殊: S10T 認定品 (M12 M16 M20 M22 M24)
- 中ボルト
M M 高力ボルトすべり係数試験 要 否
M M 高力ボルト導入張力確認試験 要 否
- アンカーボルト
SS400 M L= mm ナット (シングル、ダブル)
 M L= mm ナット (シングル、ダブル)
- 頭付スタッド
φ= L= mm 使用箇所 (柱 大梁 小梁)
使用箇所 (柱 大梁 小梁)

- =(6) 屋根、床、壁=
- ALC板 厚
折版 H= 厚
デッキプレート 形式 厚
キーストプレート 形式 厚
特殊デッキプレート

3. 地盤

- (1) 地盤調査
有 (敷地内 近隣) ボーリング調査 平板載荷試験 水平地盤反力係数の測定
液状化判定 現場透水試験 土質試験 電気式コーン貫入試験
無 (調査予定 有 無)
- (2) 地盤調査計画
ボーリング調査 静的貫入試験 標準貫入試験 水平地盤反力係数の測定
土質試験 物理調査 平板載荷試験
- (3) 地盤調査及び試験杭の結果により、長杭、杭群、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある
- (4) ボーリング標準貫入値、土質構成 (基礎・杭の位置を明記すること)



4. 地業工事

- (1) 直接基礎
ベタ基礎 布基礎 独立基礎 試験堀 有 無
深さ: SGL-2.43m 支持層: 底盤下地盤面
長期許容支持力度 115 kN/m² 載荷試験 有 無
- (2) 基礎杭 支持層

杭種	材料	施工法	備考
<input type="checkbox"/> RC <input type="checkbox"/> PC	PC (<input type="checkbox"/> A種 <input type="checkbox"/> B種 <input type="checkbox"/> C種)	<input type="checkbox"/> 打ち込み	
<input type="checkbox"/> PHC <input type="checkbox"/> H鋼	PHC (<input type="checkbox"/> A種 <input type="checkbox"/> B種 <input type="checkbox"/> C種)	<input type="checkbox"/> 埋込み (セメントミルク工法)	
<input type="checkbox"/> 鋼管 <input type="checkbox"/> 摩擦杭	鋼材 <input type="checkbox"/> SS400 <input type="checkbox"/> STK490	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	
場所打ちコンクリート杭	コンクリート F _c = N/mm ² スランブ cm セメント量 kN/m ³ 鉄筋 主筋 SD HOOP SD	<input type="checkbox"/> オールケーシング <input type="checkbox"/> 振動杭 <input type="checkbox"/> リバーサクキュレーション <input type="checkbox"/> アースドリル <input type="checkbox"/> ミニアース	振動杭 日本建築センター認定 第 号 年 月 日

杭仕様 施工計画書承認 杭施工結果報告書
試験杭 (有 無) (打ち込み 載荷) 本

杭径 (mm)	設計支持力 (kN)	杭の先端の深さ (m)	本数	特記事項

5. 鉄筋コンクリート工事

- (1) コンクリート
 コンクリートはJIS認定工場の製品とし施工に関してはJASS5 (2015)による。
 耐久設計基準強度 F_d 短期 標準 長期
 セメントは、JIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。
 調査計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
 フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で(財)国土開発技術研究センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真(カラー)を保管し承認を得る。
測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。
 構造体コンクリートについて、現場の圧縮強度試験供試体 (JASS5T-603) は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み工区ごと、打ち込み日ごととする。
また、打ち込み量が150m³をこえる場合は150m³ごとまたは、その端数ごとに1回を標準とする。1回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当り6本以上とし、そのうち4適用に3本を用いる。
 ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ち、コンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は150分、25℃以上の場合は120分以内とする。
- (2) 鉄筋
 鉄筋は、JIS G3112の規格品を標準とする。施工はJASS5による。
 高強度せん断補強筋は、JIS G 3137に規定されるD種1号適合品とする。
 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋基準図(1)(2)」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋基準図(1)(2)」による。
 D19未満は、すべて重ね継手とする。継手 (D19以上) をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。
 ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと (200箇所を超えるときは、200箇所ごと) に1回行い、1回試験は5本以上とする。外観検査 有 無、引張試験 有 無、超音波深傷試験 有 無
 柱の帯筋 (HOOP) の加工方法は、 H型 (タガ型) W型 (溶接型) S型 (スパイラル型) とする。
 コンクリート及び鉄筋の試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都採取要綱」第4条の試験機関で行うこと。
試験機関名
代行業者名
代行業者名とは、試験、検査に伴う業務を代行する者をいう。
- (3) 型枠
 材料 合板厚 12mmを標準とする。 施工はJASS5による。
 型枠存置期間

種類 部位 セメントの種類 存在期間 平均気温	せき板				支柱			
	基礎、梁側、柱、壁	スラブ下、はり下	スラブ下	はり下	スラブ下	はり下	はり下	
単強度ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	単強度ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	単強度ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	単強度ポルトランドセメント	単強度ポルトランドセメント	
高強度ポルトランドセメント A種	高強度ポルトランドセメント A種	高強度ポルトランドセメント A種	高強度ポルトランドセメント A種	高強度ポルトランドセメント A種	高強度ポルトランドセメント A種	高強度ポルトランドセメント A種	高強度ポルトランドセメント A種	
シリカセメント A種	シリカセメント A種	シリカセメント A種	シリカセメント A種	シリカセメント A種	シリカセメント A種	シリカセメント A種	シリカセメント A種	
コンクリート (日)	15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
	5℃~15℃	3	5	6	10	12	25	28
	5℃未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの圧縮強度	5.0N/cm ²	設計基準強度の50%			設計基準強度の			
					85%	100%		

- 注) 1 片持ばり、庇、スパン9.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。
注) 2 大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはりの場合も原則として行わない。
注) 3 支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
注) 4 盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
注) 5 支柱の盛りかえは、小ばりが終わってから、スラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。
注) 6 上表以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による。

6. 鉄骨工事

- (1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による
 日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工技術指針」
 鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工指針」
 (社)鉄骨建設業協会「突合せ継手の食違い仕口のずれの検査・補強」
- (2) 工事管理者の承認を必要とするもの
 製作工場 製作要領書 工作図 施工計画書
 認定または登録工場 (R グレード 都登録 ランク)
 材料規格証明書または試験成績書
 鋼材 高力ボルト 特殊ボルト 頭付スタッド
 社内検査表
- (3) 工事監理者が行う検査項目
(印以外の項目の検査結果については、工事管理者に報告すること)
 現状検査 組立・開先検査 製品検査
 建方検査
- (4) 接合部の溶接は下記によること
 東京都アーク溶接工事管理基準 (建築構造設計指針第12章)
 鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱 (建築構造設計指針第12章)
 日本建築学会「溶接工作基準、解説I、II、III、IV、V、VI、VII、VIII、IX」
 日本建築学会「鉄骨工技術指針、工事現場施工編」
- (5) 接合部の検査
 溶接部の検査 (検査結果は後日工事監理者に報告すること)

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数			備考
		社内	第三者	工事管理者	
<input type="checkbox"/> 突合せ溶接部 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	超音波深傷試験	% 値	% 値	% 値	
	外観(目視)検査	%	%	%	
	マクロ試験・その他	個	個	個	

第三者検査機関名
第三者検査機関とは、建築主、工事管理者又は工事施工者が、受入検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。

- 注) 現場溶接部については原則として第三者による全数検査を行うこと。
注) 現場溶接部は、超音波深傷試験を100%行う事。
 高力ボルトは「JIS B1186の高力ボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒皮などを座金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した赤さび状態あること。ただし、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面あさが50S以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。
 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。また、締付けは一次、二次締めとする。締付け後の検査は、各締付け工法別に適切な締付けが行なわれているか検査する。
 防錆塗装
 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めペイントは、JIS K5621、2回塗りを標準とする。
 現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調査は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗りとする。
 耐火被覆の材料
 意匠図による。

7. 設備関係

- 特記以外の梁貫通孔は原則として設けず、設ける場合は設計者の承認を得ること。
 設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。
 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を管径の3倍以上かつ5cm以上を原則とする。
 給水、排水その他の配管設備の設置及び構造は、施行令第129条の2の5に従うこと。

8. その他

- 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
 必要に応じて記録写真を撮り保管すること。

構造設計 一級建築士 第354113号 佐藤 雅則

PROJECT (仮称)練馬区関町北1MPJ 新築工事	OKWave	SIGN	訂正月日	DATE	特記事項	PROJECT NO	株式会社暁建設一級建築士事務所
TITLE 構造設計標準仕様	SCALE 1/ NONSCALE	DATE 2023年 10月 16日				SHEET NO S-01	1級建築士登録 第185063号 一級建築士 黒崎 信之

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1)

1. 一般事項

- 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
- 記号
 d...異形棒筋の呼び名に用いた数値 丸鋼では径 D...部材の成 R...直径
 @...間隔 r...半径 e...中心線 l...部材の内寸法距離 h...部材間の内法高さ
 ST...あばら筋 HOOP...帯筋 S.HOOP...補強帯筋 φ...直径又は丸鋼

2. 鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°	折まげ角度90°はスラブ筋、壁筋の末端部またはスラブと同時に打ち込む形およびL形梁のキヤップタイにのみ用いる。 ※片持スラブ、上端筋の先端
図				
鉄筋の余長	4d以上	6d以上(※4d以上)	8d以上(※4d以上)	
折曲げ内法寸法Rは、SR235は3d以上、SD295 SD345のD16以下は、3d以上、D19以上は4d以上				

(2) 鉄筋中間部の折曲げの形状 鉄筋折り曲げ角度90°以下

図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内寸法(R)
	帯あばら筋 スパイラル筋	SR235、SD295	16φ以下	3d以上
		SD345	19φ以上	4d以上
	上記以外の鉄筋	SR235、SD295	16φ以下	4d以上
			19φ~25φ	6d以上
		SD345	28φ~32φ	8d以上
			D29~D38	

(3) 鉄筋の定着及び重ね継手長さ

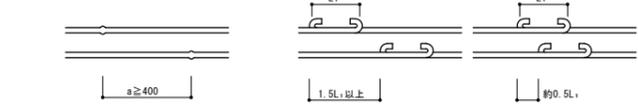
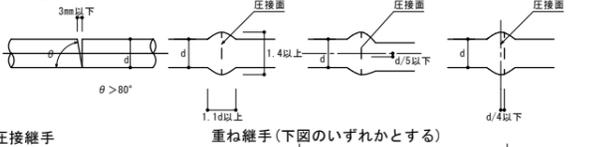
鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲(N/mm ²)	定着の長さ			特別の定着及び重ね継手の長さ(L)
		一般(L _d)	下筋(L _b)		
			小梁	スラブ	
SR235	21~36	35d フックつき	25d フックつき	15d フックつき	35d フックつき
	18以下	45d フックつき			45d フックつき
SD295	21~36	35d または 25d フックつき	25d または 15d フックつき	10d かつ 15cm以上	40d または 30d フックつき
	18以下	40d または 30d フックつき			45d または 35d フックつき

※地中梁主筋の定着については、基準法施行令73条2項により40dとする。

継手

- 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
- 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
- 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
- D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない
- 鉄筋径の差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない

ガス圧接形状



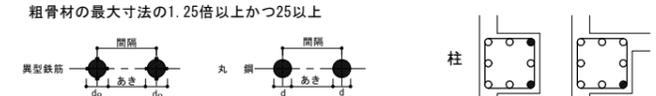
(4) かぶり厚さ(単位: mm)

部	位置	設計かぶり厚さ(最小かぶり厚さ)	
		(mm)	(mm)
土に接しない部分	層間スラブ	30	20
	床スラブ	40 ⁽¹⁾	30(20)
土に接する部分	柱・はり	50 ⁽²⁾	40 ⁽¹⁾ (30)
	壁	50 ⁽³⁾	40
土に接する部分	柱・はり・スラブ・耐力壁	50	40 ⁽⁴⁾
	基礎・擁壁	70	60 ⁽⁴⁾

- (注) (1) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事管理者の承認を受けて30mmとすることができる。
 (2) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事管理者の承認を受けて40mmとすることができる。
 (3) コンクリートの品質および施工方法に応じ、工事管理者の承認を受けて40mmとすることができる。
 (4) 軽集コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。
 ()内は仕上げがある場合。

(5) 鉄筋のあき

丸鋼では径、異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上 粗鋼材の最大寸法の1.25倍以上かつ25以上

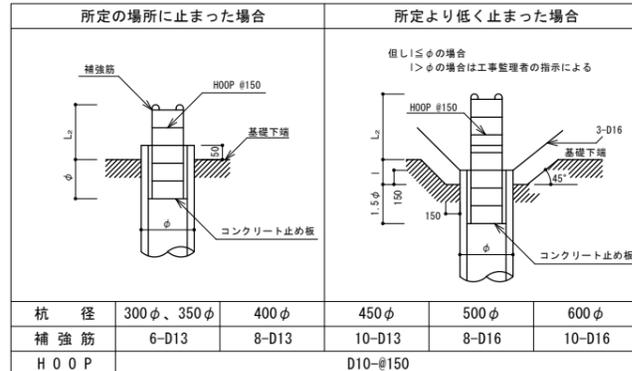


(6) 鉄筋のフック(a-f)に示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。

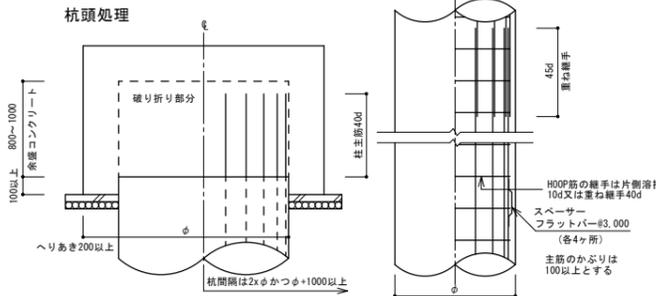
- 丸鋼
- あばら筋、帯筋
- 煙突の鉄筋
- 柱、梁(基礎梁を除く)の出すみ部分の鉄筋(右図参照)
- 単純梁の下端筋
- その他、本配筋標準に記載する箇所

3. 杭 (地震力等の水平力を考慮する必要がある場合は、別途検討すること。)

(1) PC杭、又はPHC杭の全てに補強を行う

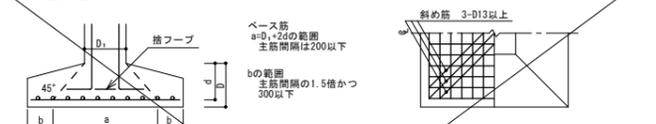


(2) 現場打ちコンクリート杭 杭頭処理

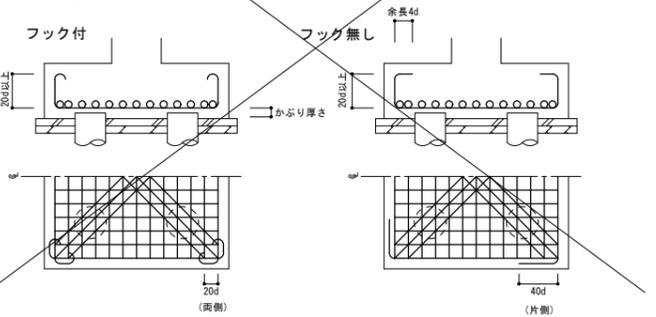


4. 基礎

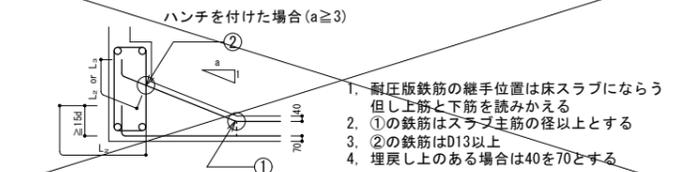
(1) 直接基礎



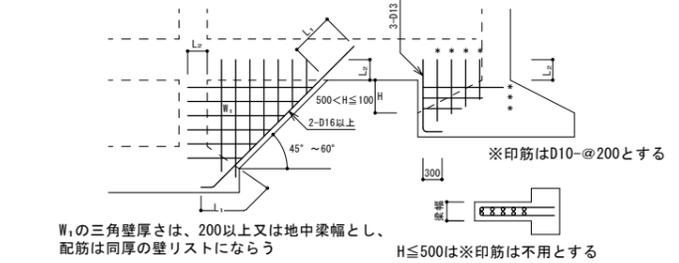
(2) 杭基礎



(3) ベタ基礎

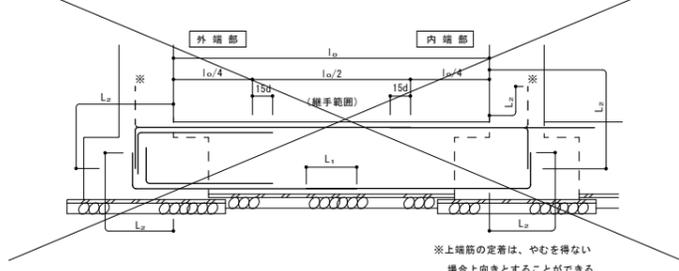


(4) 基礎接合部の補強

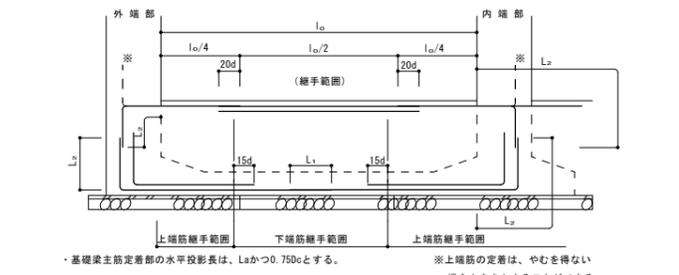


5. 地中梁

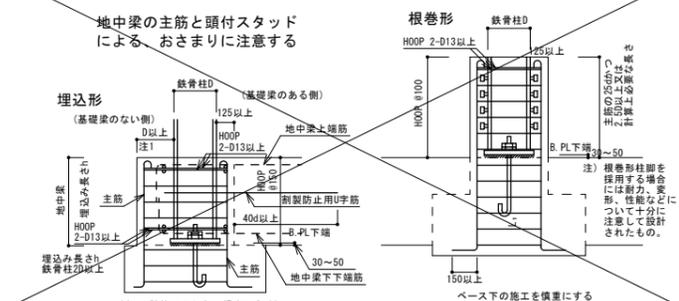
(1) 独立基礎、杭基礎の場合(定着、継手)



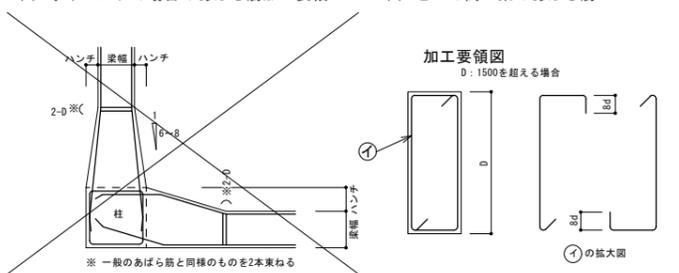
(2) 布基礎、べた基礎の場合(定着、継手)



(3) 小規模鉄骨構造の柱脚固定配筋

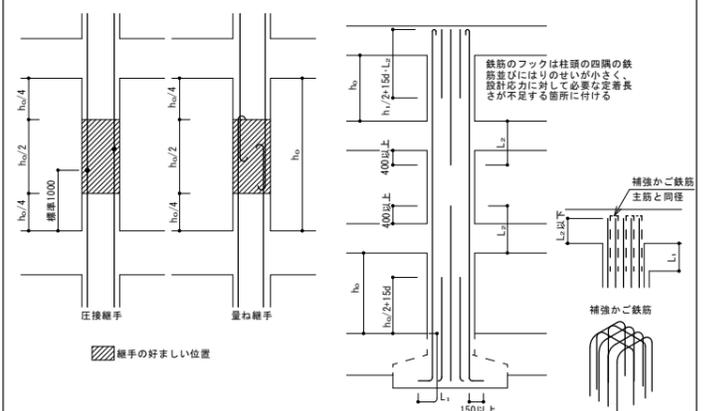


(4) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領

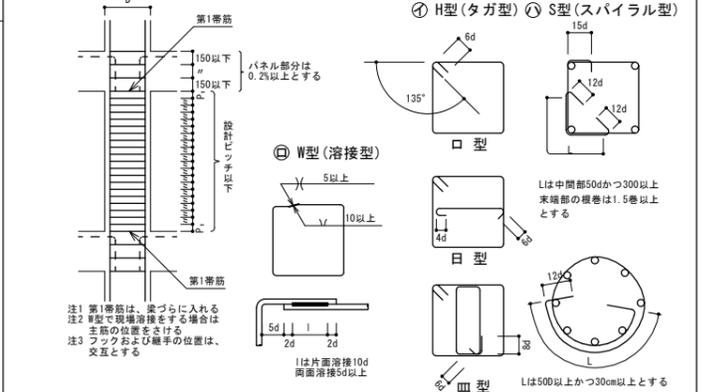


6. 柱

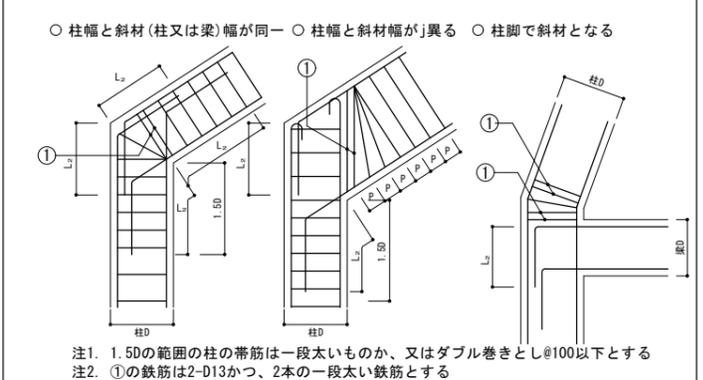
(1) 柱主筋の継手



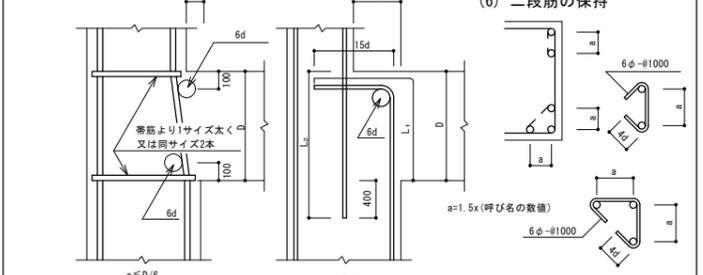
(3) 帯筋



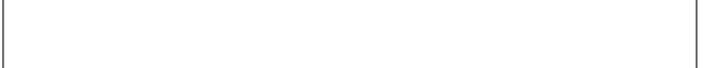
(4) 斜め柱・斜め梁



(5) 絞り



(6) 二段筋の保持



構造設計 一級建築士 第354113号 佐藤 雅則

PROJECT (仮称)練馬区関町北1MPJ 新築工事	OKWave	SIGN	訂正月日	DATE
TITLE 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)	SCALE 1/ NONSCALE	DATE 2023年 10月 16日		

特記事項	
------	--

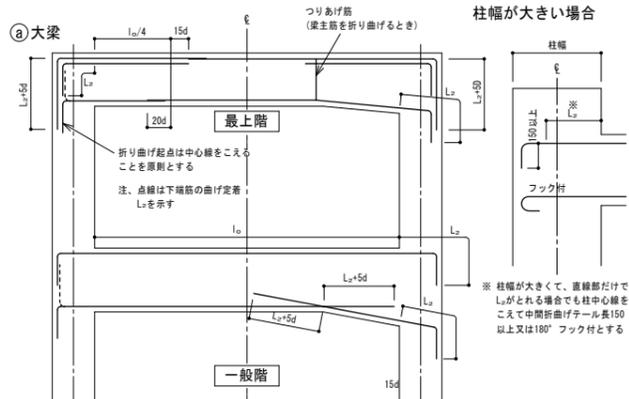
PROJECT NO 株式会社暁建設一級建築士事務所
SHEET NO S-02
1級建築士登録 第185063号 一級建築士 黒崎 信之

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2)

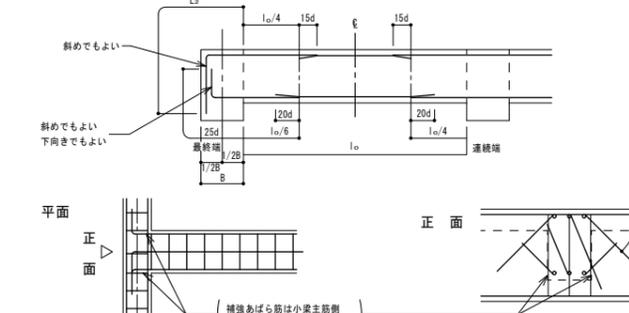
L=鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)の2-(3)による。

7. 大梁、小梁、片持梁

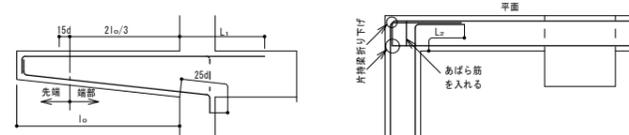
(1) 定着



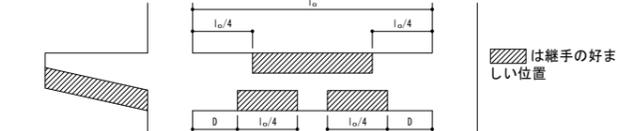
(b) 小梁の定着



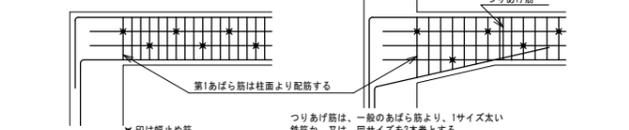
(c) 片持梁の定着



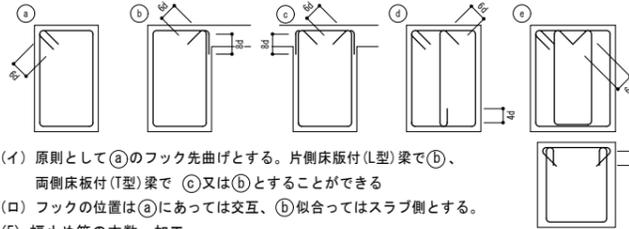
(2) 大梁主筋の継手



(3) あばら筋、腹筋、幅止めの配置



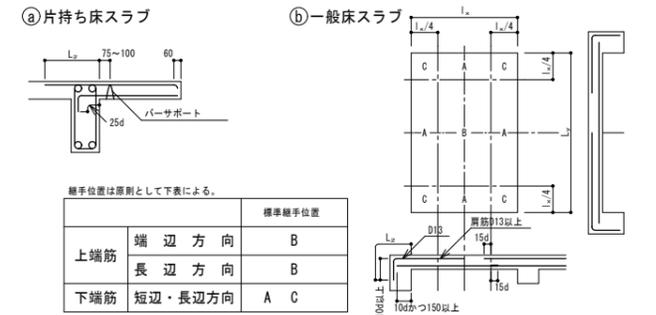
(4) あばら筋の型 (注、床板がない場合は135°以上のフックとする)



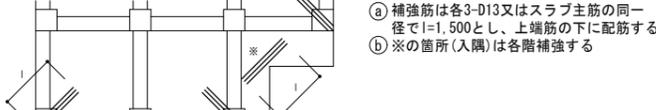
腹筋	D<600 不要 600≤D<900 2-D10(9φ) 1段 900≤D<1200 4-D10(9φ) 2段 1200≤D D10(9φ) @300以内
幅止め筋	D10(9φ) @1000位内で割り付ける

8. 床板

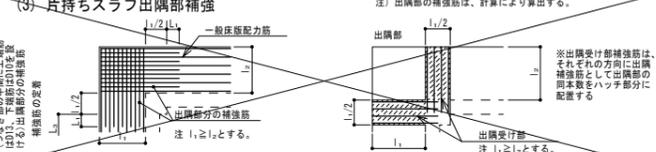
(1) 定着および継手



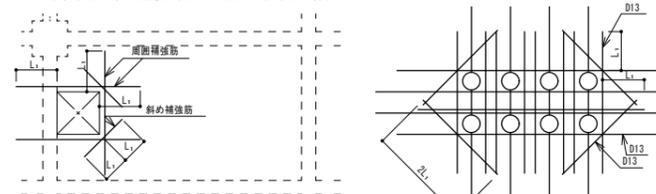
(2) 屋根スラブの補強



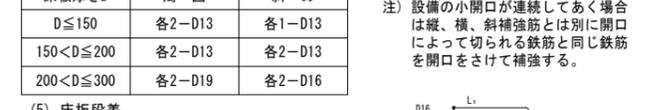
(3) 片持ちスラブ出隅部補強



(4) 床板開口部の補強(開口の径500程度の場合)



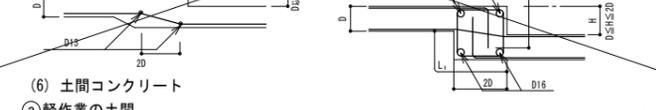
(5) 床板段差



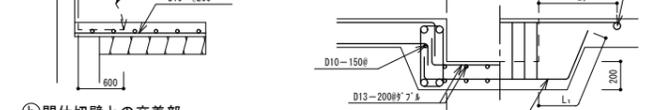
(6) 土間コンクリート



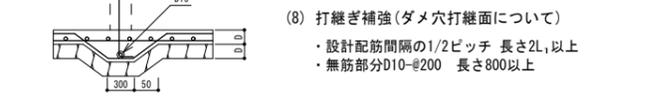
(7) 釜場



(8) 間仕切壁との交差部

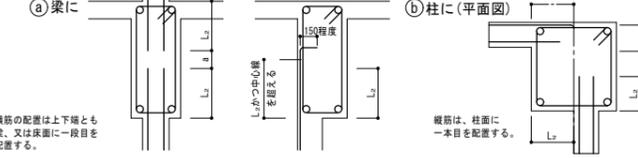


(9) 打継ぎ補強(ダメ穴打継面について)



9. 壁

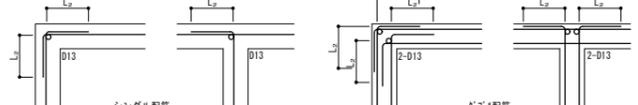
(1) 定着



(2) 床に



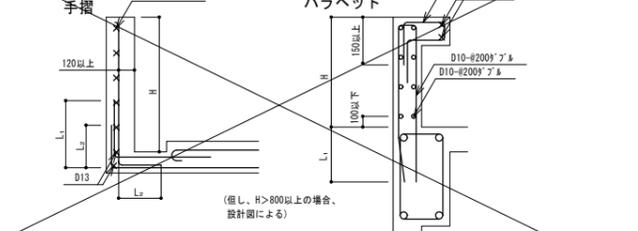
(3) 壁と壁(平面図)



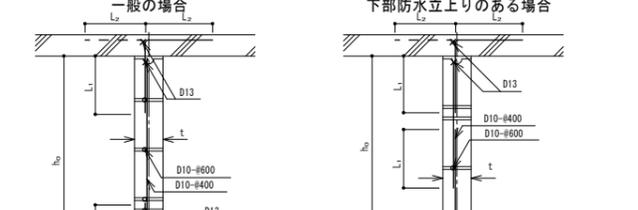
(4) スリット部(設計図に記入のあるとき)



(5) 手摺、パラベット



(6) コンクリートブロック縦壁

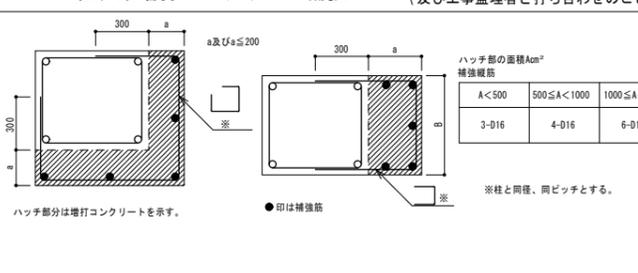


注) h₀≤25tかつ3500以下とする。但し直交方向25t以内に壁、又は柱がある場合は除く

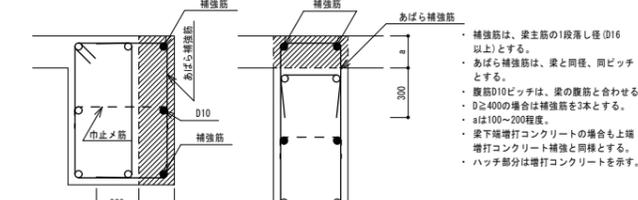
注) hはコンクリートブロック段数調節寸法とする。但し、200≤h≤400

注) 継手部は必ずモルタルをてん充すること

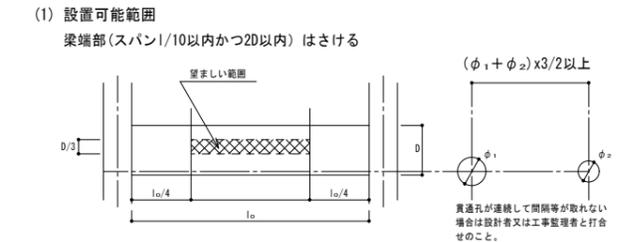
10. 柱、梁増打コンクリート補強



(2) 梁

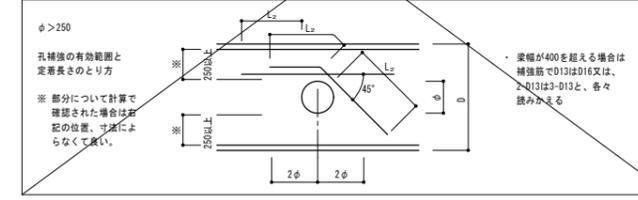


11. 梁貫通孔補強



(2) 鉄筋標準配筋

80≤φ≤100 折筋 2-(2-D13) 縦筋 ST2-D13	100<φ≤150 折筋 2-(2-D13) 縦筋 ST2-D13-100@ 横筋 2-(2-D13)	150<φ≤250 斜筋 4-(2-D13) 縦筋 ST2-D13-100@ 横筋 2-(2-D13) 縦筋 ST2-D13
--	--	--

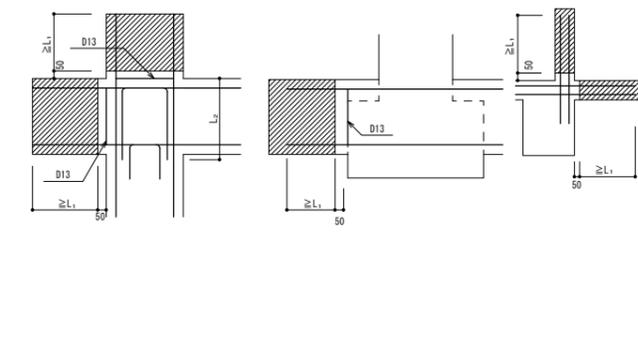


(3) 既製品

- (使用するときには、設計者又は工事監理者と打合せのこと)
- リング型 パイプ型 金網型 プレート型

12. 増築予定

(将来増築予定のコンクリート間仕切り部分は、増築時の鉄筋継手工事を考慮して配置する)



壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1)

1. 一般事項

- 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
- 記号
 - d...異形棒鋼の呼び名に用いた数値
 - D...部材の成
 - R...直径
 - @...間隔
 - r...半径
 - C...中心線
 - l_o...部材の内寸法距離
 - h_o...部材間の内法高さ
 - ST...あばら筋
 - HOOP...帯筋
 - S.HOOP...補強帯筋
 - φ...直径

2. 鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°	折まげ角度90°はスラブ、壁筋の末端部またはスラブと同時に打ち込む形およびL形鋼のキャップタイにのみ用いる。 ※片持スラブ、上端筋の先端
図				
鉄筋の余長	4d以上	6d以上(※4d以上)	8d以上(※4d以上)	

鉄筋は、SD295、SD345を使用する。
 折曲げ内寸法Rは、16以下は、3d以上、D19以上は4d以上

(2) 鉄筋中間部の折曲げの形状 鉄筋折り曲げ角度90°以下

図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分		鉄筋の折曲げ内の寸法(R)
			D16以下	D19以上	
	帯筋	SD295	D16以下	3d以上	4d以上
	あばら筋	SD345	D19以上	3d以上	
	上記以外の鉄筋	SD295	D16以下	4d以上	6d以上
		SD345	D19~D25	6d以上	

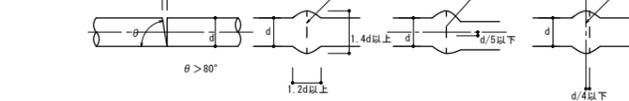
(3) 鉄筋の定着及び重ね継手長さ

鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲(N/mm ²)	定着の長さ			特別の定着及び重ね継手の長さ(L _s)	
		一般(L _s)	下ば筋(L _s)			
SD295	21 22.5 24	35d または 25d フックつき	一般	小梁	スラブ	40d または 30d フックつき
			SD345	18	40d または 30d フックつき	

注意：コンクリートは普通F_c=18N/mm²以上24N/mm²以下、軽量F_c=18N/mm²以上22.5N/mm²以下重ね継手および定着長さは施行令73条2項による。

継手

- 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
- 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
- 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする



(4) 鉄筋のかぶり厚さ (単位: mm)

構造部分	最小かぶり厚さ (mm)	設計かぶり厚さ (mm)
屋根スラブ・床スラブ・片持ちスラブ**・耐耐力壁	20*	30*
耐力壁・壁梁・小梁・片持ち梁	30*	40*
土に接する耐力壁・床スラブ・布基礎の立上り部分・基礎つなぎ梁	40	50
基礎 (捨コンクリート部分を除く)	60	70

[注] * 耐久性上有効な仕上げが無い場合には、屋内・外にかかわらず10mm増しとする。
 又、軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。
 ** 片持ちスラブ先端は、最小かぶり30mmとする。[8-(1)の@参照]

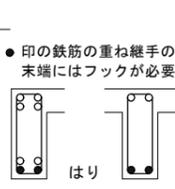
(5) 鉄筋のあき

- 異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上
- 粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25以上



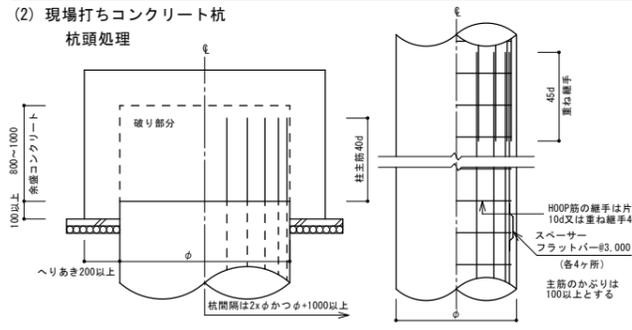
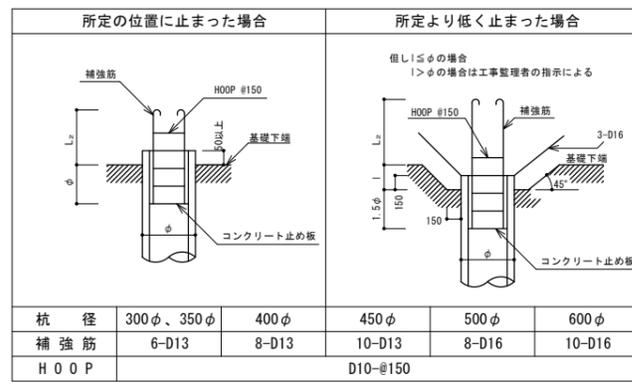
(6) 鉄筋のフック (a-fに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。)

- 壁長が1m以下の壁横筋の末端
- あばら筋、帯筋
- 煙突の鉄筋
- 柱、梁(基礎梁は除く)の出すみ部分の鉄筋(右図参照)
- 単純梁の下端筋
- その他、本配筋標準に記載する箇所



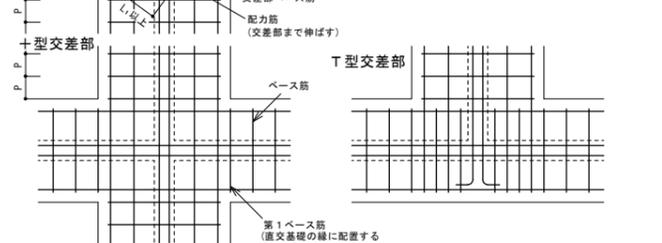
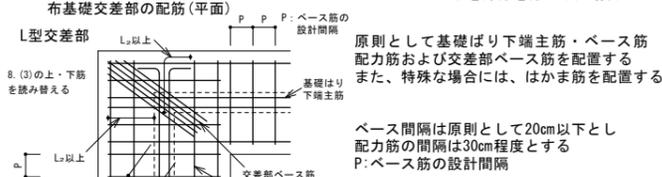
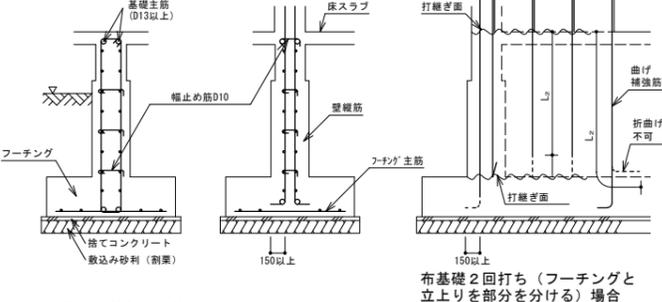
3. 杭 (地震力等の水平力を考慮する必要がある場合は、別途検討すること。)

(1) PC杭、又はPHC杭全てに補強を行う

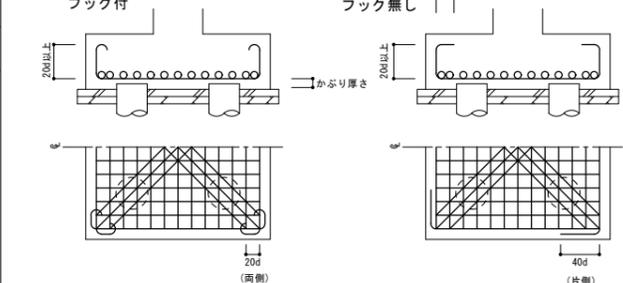


3. 基礎

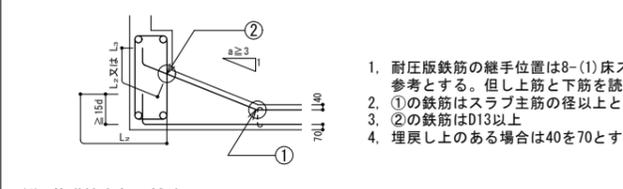
(1) 布基礎



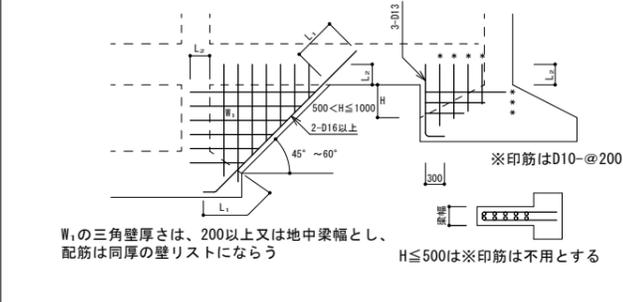
(2) 杭基礎



(3) ベタ基礎

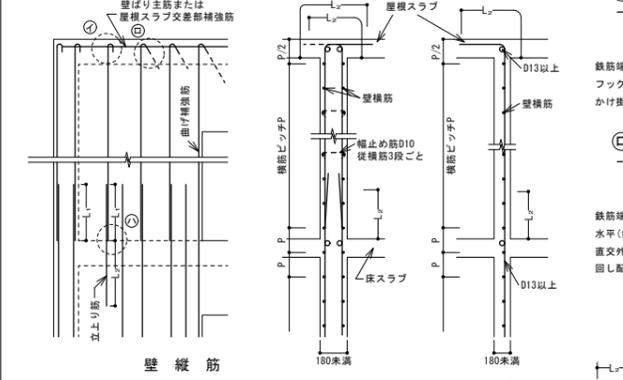


(4) 基礎接合部の補強

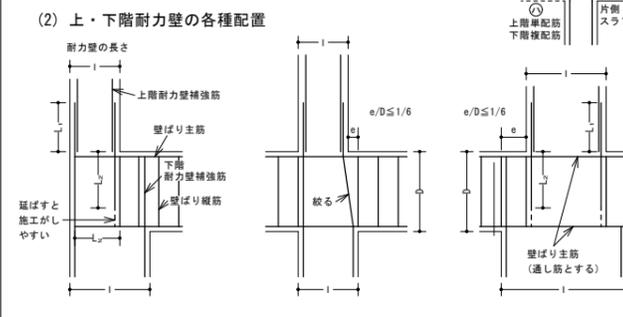


3. 耐力壁

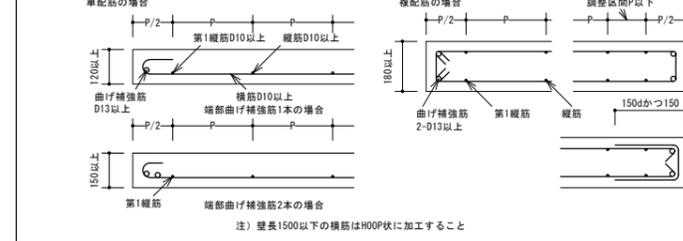
(1) 縦筋・曲げ補強筋・縦補強筋の定着



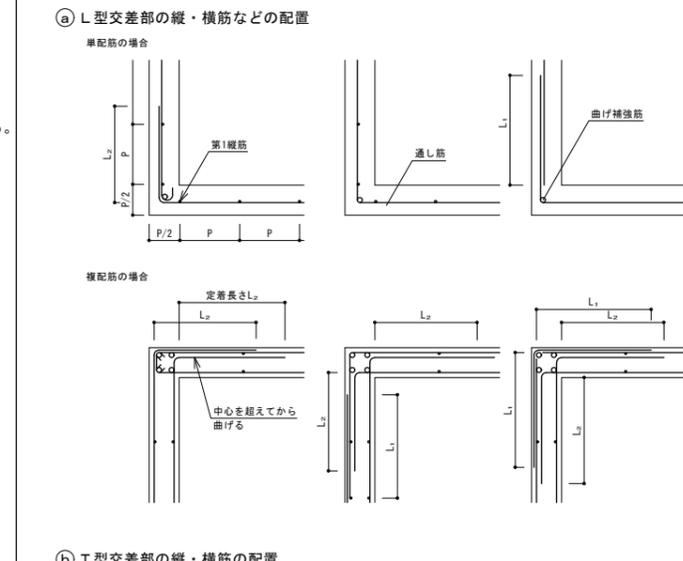
(2) 上・下階耐力壁の各種配置



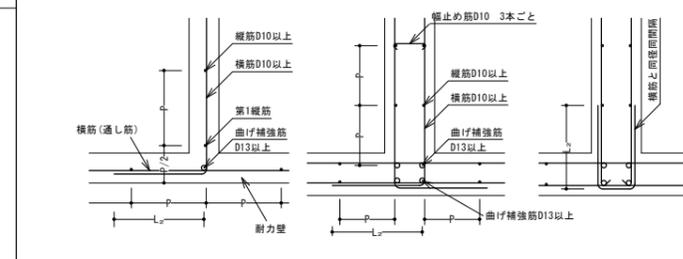
(3) 耐力壁の縦・横筋の配置



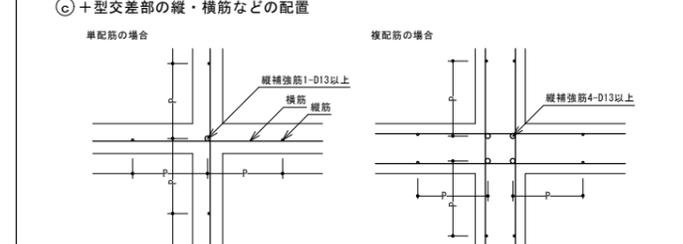
(4) 耐力壁が交差する場合(平面)



(5) T型交差部の縦・横筋の配置



(6) +型交差部の縦・横筋の配置



6. 使用可能な鉄筋の最大径(標準)

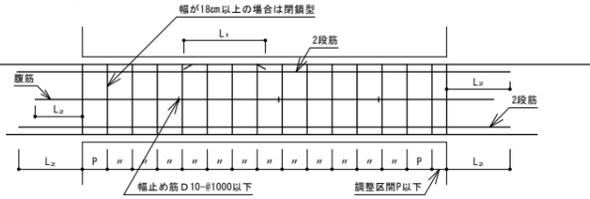
構造種別	部位	耐力壁	壁がりよう小梁	布基礎基礎基礎梁	スラブ	非耐力壁	塀
壁式鉄筋 コンクリート造		D22	D22	D25	D16	D16	D16

壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2)

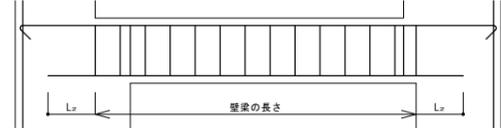
L=鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)の2-(3)による。

7. 壁梁、小梁

(1) 壁梁の標準配筋図

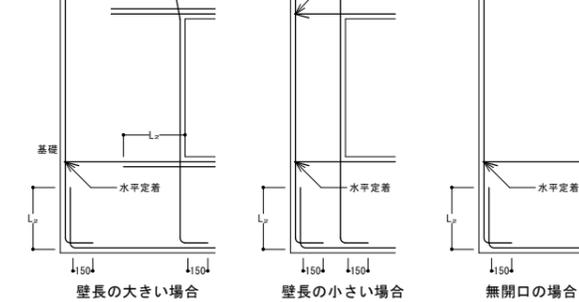
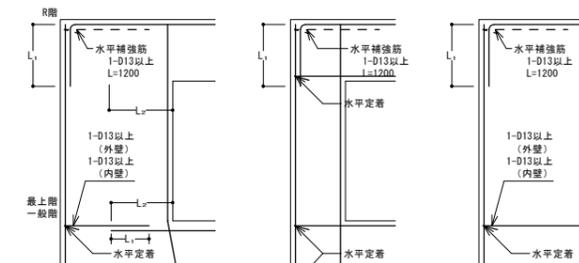
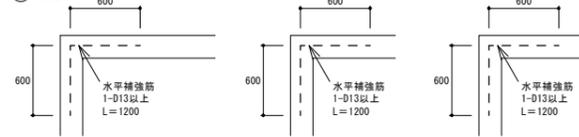


(2) 壁梁の範囲

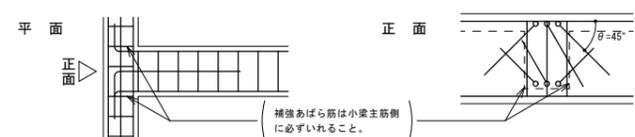
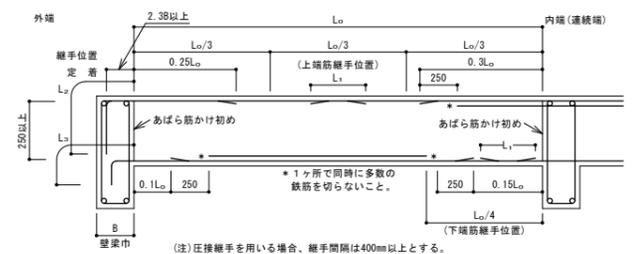


(3) 定着

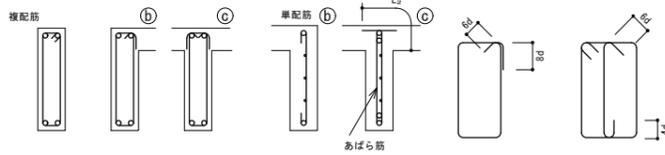
① 壁梁



② 小梁の定着・継手位置およびトップ長さ

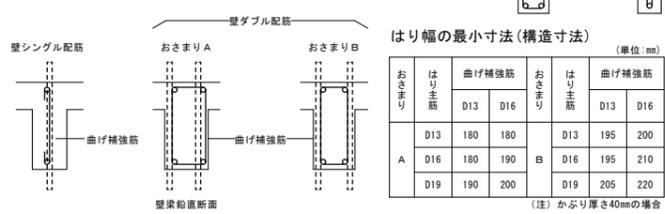


(4) あばら筋の型



(イ) 原則として①のフック先曲げとする。
片側床版付(L型)梁で①、
両側床版付(T型)梁で②とすることができる
(ロ) フックの位置は①にあっては交互、
②にあってはスラブ側とする。

(5) 幅止め筋の本数、加工



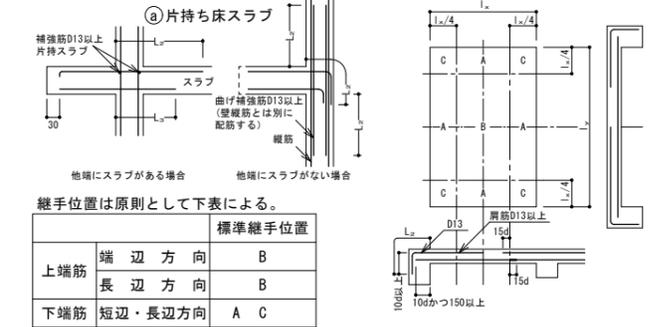
はり幅の最小寸法(構造寸法)

おさまり	はり主筋	曲げ補強筋		おさまり	はり主筋	曲げ補強筋	
		D13	D16			D13	D16
A	D13	180	180	B	D16	195	210
	D16	180	190		D19	205	220
	D19	190	200				

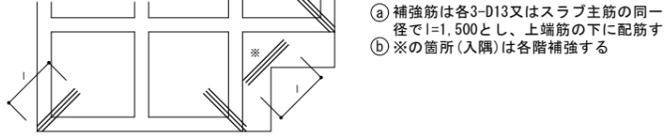
(注) かぶり厚さ40mmの場合

8. 床板

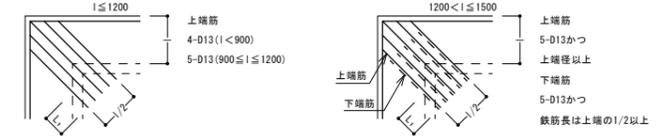
(1) 定着および継手



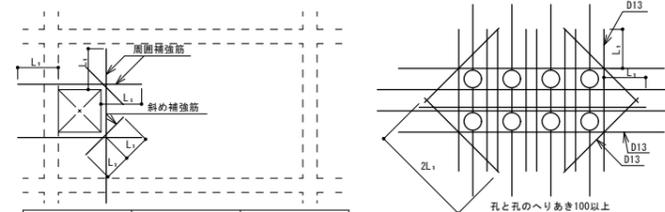
(2) 屋根スラブの補強



(3) 片持ちスラブ出隅部補強



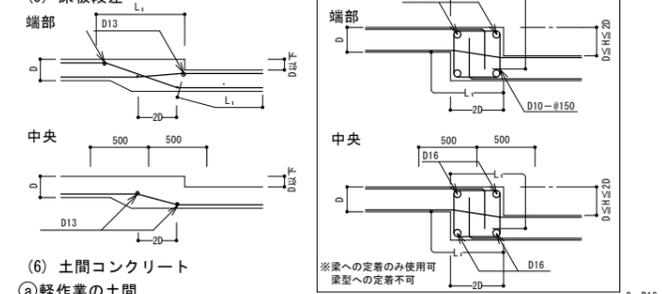
(4) 床板開口部の補強(開口の径500程度の場合)



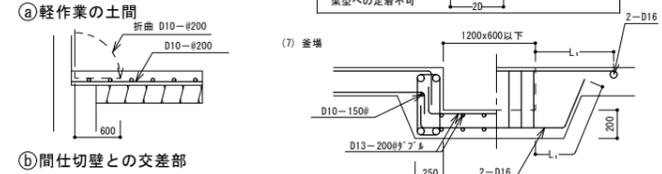
床板厚さD	周囲	斜め
D ≤ 150	各2-D13	各1-D13
150 < D ≤ 200	各2-D13	各2-D13

注) 設備の小開口が連続してあく場合は縦、横、斜補強筋とは別に開口によって切られる鉄筋と同じ鉄筋を開口をさけて補強する。

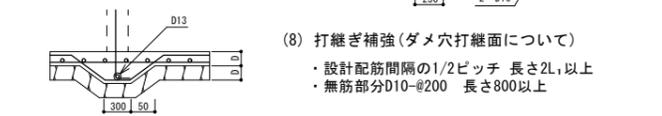
(5) 床板段差



(6) 土間コンクリート

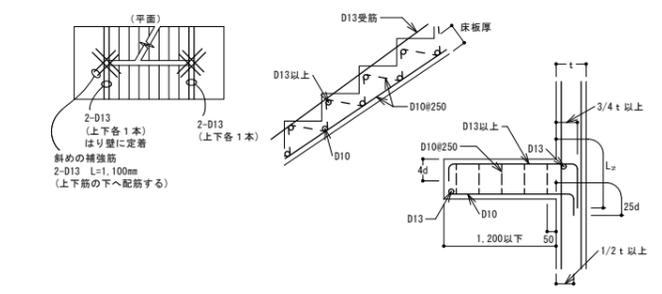


(7) 差場



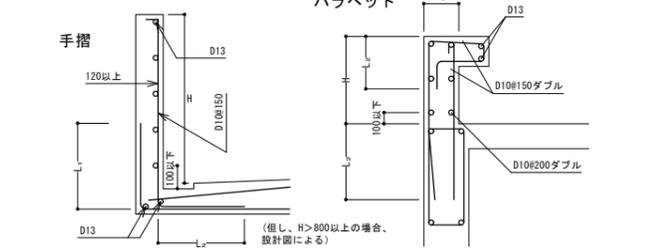
9. 階段

片持ち階段

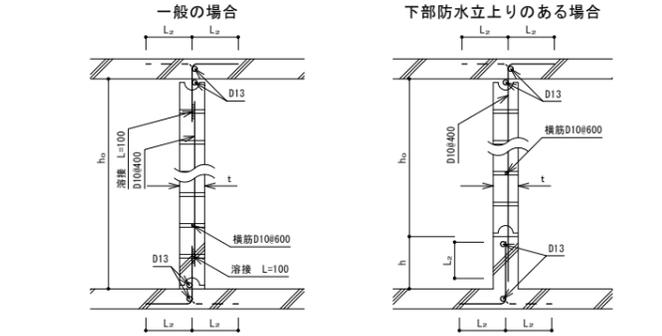


10. その他

(1) 手摺、パラベット



(2) コンクリートブロック塀



注) $h_0 \leq 25t$ かつ3500以下とする。但し直交方向25t以内に壁、又は柱がある場合は除く。
注) hはコンクリートブロック段数調節寸法とする。但し、 $200 \leq h \leq 400$
注) 鉄筋挿入部はモルタルを充てんすること。

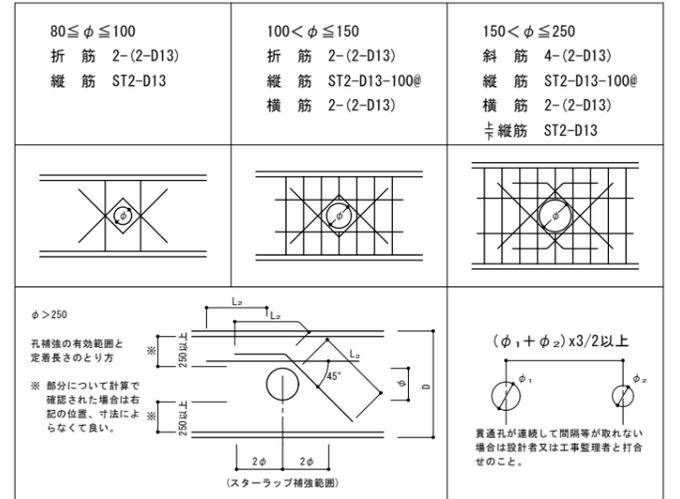
11. 梁貫通孔補強

(3) 既製品(使用するときは、設計者又は工事監理者と打合せのこと)

リング型 パイプ型 金網型 プレート型

(2) 鉄筋標準配筋 但し、 $\phi \leq D/3$ とする

設置可能範囲 梁端部(スパン1/10以内かつ20以内)は避ける

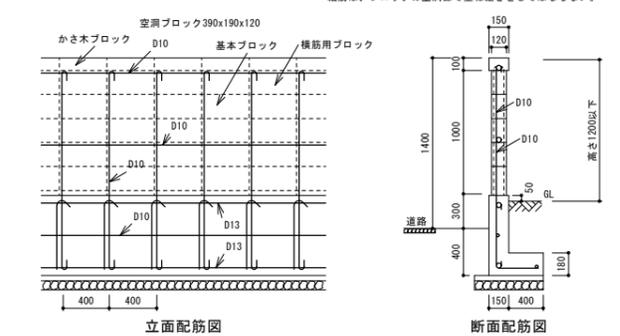


12. コンクリートブロック塀

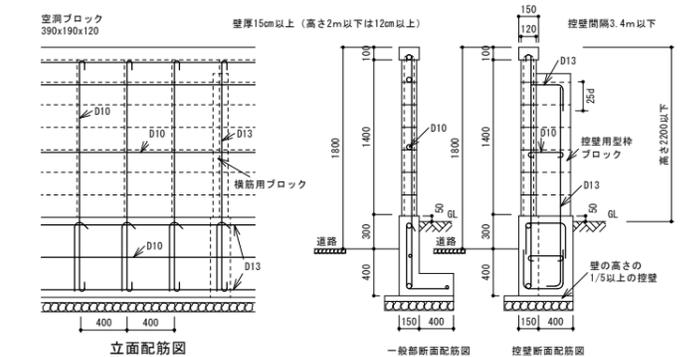
(1) ブロック塀の高さ・厚さと基礎の構造

- 塀の高さ(地盤面に高低差がある場合は低い方による)は2.2m以下。
- 塀の厚さは、塀の高さ2m以下の場合は12cm以上、2mを超える場合は15cm以上。
- 地盤が液状化のある砂質土および軟弱土の場合は別途検討する。
- 鉄筋挿入部はモルタルを充てんすること。

控え壁のない塀例 高さ1.2m以下



控え壁のある塀例 高さ2.2m以下



構造設計 一級建築士 第354113号 佐藤 雅則

PROJECT (仮称)練馬区関町北1MPJ 新築工事
TITLE 壁式鉄筋RC構造配筋標準図(2)
SCALE 1/ NONSCALE
DATE 2023年 10月 16日

OKWave SIGN
訂正月日 DATE

特記事項

PROJECT NO 株式会社暁建設一級建築士事務所
SHEET NO S-05
1級建築士登録 第185063号
一級建築士 黒崎 信之

MAXウェブレン標準仕様書

テイエム技研株式会社

本社 〒893-0032 鹿児島県鹿屋市川西町3949
TEL:0994-43-4341 FAX:0994-43-4471

東京支店 〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-11-4 テイエムビル1階
TEL:03-6661-2621 FAX:03-6661-2622
E-mail:tmgkty@tmgiken.com

大阪支店 〒536-0013 大阪府城東区鶴野東3-5-14
TEL:06-6965-1171 FAX:06-6965-1181
E-mail:tmosaka@tmgiken.com

福岡支店 〒810-0041 福岡市中央区大名1-9-27
TEL:092-711-7744 FAX:092-741-3343
E-mail:tmgkfukuoka@tmgiken.com

1. 一般事項

- 本仕様書は、(財)日本建築センターの一般評定「BCJ評定-RC0097-07」に適合するように標準仕様を定めるものであり、各設計における特記仕様は、本仕様書に優先して適用する。
- 本仕様書に定めなき事項は、日本建築学会「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」及び「建築工事標準仕様書・同解説 (JASS5) 鉄筋コンクリート工事」による。

2. 適用範囲

(1) 使用材料

a) コンクリート設計基準強度

$$21 \leq F_c \leq 80 \text{ N/mm}^2$$

b) 主筋

普通鉄筋のうち以下の種類

SD295A, SD345, SD390, SD490

高強度鉄筋のうち以下の種類

SD590, SD685 ただし、建築基準法第37条第二号の規定に基づく国土交通大臣認定品

c) あばら筋

普通鉄筋のうち以下の種類

SD295A, SD345, SD390

高強度鉄筋のうち以下の種類

685 N/mm², 785 N/mm² 級または1275 N/mm² 級高強度鉄筋のうち、建築基準法第37条第二号の規定に基づく国土交通大臣認定品

d) 開孔補強筋

785 N/mm² 級せん断補強筋ストロングフープ用棒鋼【認定番号 MSRB-0005】

785 N/mm² 級せん断補強筋ストロングフープ用棒鋼 (インデント付)【認定番号 MSRB-0124】

785 N/mm² 級せん断補強筋ストロングフープ用棒鋼 (インデント無)【認定番号 MSRB-0125】

(2) 開孔径および位置

a) 開孔径 H

あばら筋に普通強度鉄筋を用いる梁 $100\text{mm} \leq H \leq 750\text{mm}$

あばら筋に高強度鉄筋を用いる梁 $100\text{mm} \leq H \leq 450\text{mm}$

開孔の形状は円形または多角形とし、梁成の1/3以下とする。

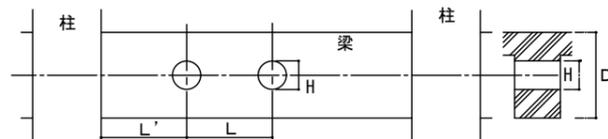
(多角形の場合は外接する円形とみなす。)

b) 開孔中心間距離 L

開孔中心間距離は、開孔径の3倍以上とする。また、隣り合う開孔径が異なる場合には、双方の開孔径の平均値の3倍以上とする。

c) 柱際から開孔中心までの距離 L'

柱面から梁せい以上離すこととする。



d) へりあきの最小寸法

梁せい $450\text{mm} \leq D < 700\text{mm}$ へりあき 175mm

梁せい $700\text{mm} \leq D < 900\text{mm}$ へりあき 200mm

梁せい $900\text{mm} \leq D$ へりあき 250mm

e) 梁が交差する場合の梁面から開孔中心までの距離

開孔補強筋が直交する梁の配筋と干渉しない範囲で開孔を設けることができる。

□ : 柱面から梁せい以上離す。

○ : 大梁、小梁とも開孔補強筋が直交する梁の配筋に干渉しない範囲で開孔可。

3. 標準配筋図

(1) MAXウェブレンの取り付け位置

MAXウェブレンはあばら筋の内側に取り付ける。

3枚以上施工する場合は中子筋へ取り付けるか、開孔補強筋を連続固定できるJ筋 (ジョイント金具) により施工する。

(2) 孔際あばら筋

孔際あばら筋は、原則として一般部あばら筋と同種、同径、同本数とし、開孔部の両側に1組以上配筋する。位置は開孔縁から設計かぶり厚を確保した位置に1組目を配筋し、複数組配筋する場合は、その間隔を50mmとする。

4. 大开孔時の補強方法

開孔径が400mm以上で主筋とMAXウェブレンの最外位置との間隔が梁せいの1/3以上となる場合は右図に示す補強を行う。なお、この補強が必要となる条件は(財)日本建築センターの評定時に指導された最低基準であるので、開孔位置等の状況によっては図に示す数値以下であっても補強が必要となる場合がある。従って開孔部の上下補強については設計担当者と協議検討のうえ決定する。

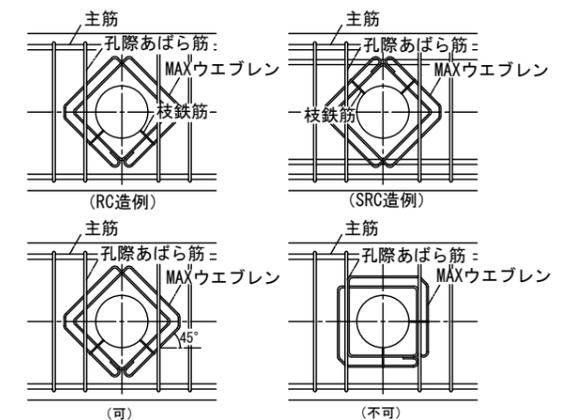
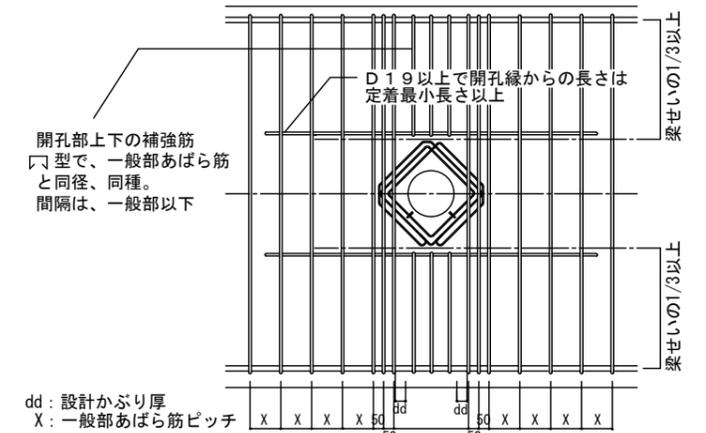
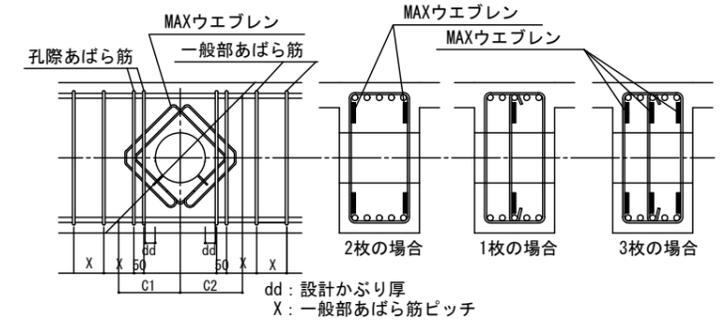
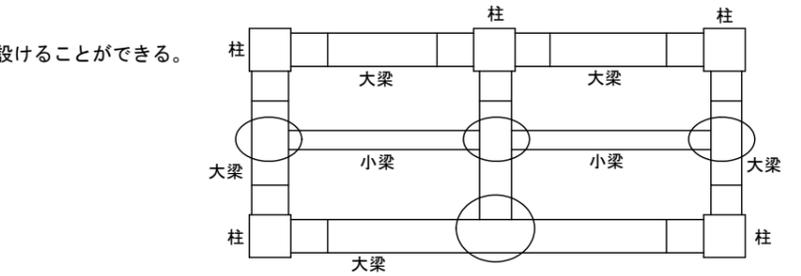
5. 施工要領

(1) 標準的な施工順序

- RC造
 - 開孔位置の芯出しを行う。
 - MAXウェブレンをあばら筋内に挿入し、枝鉄筋を下側または上側に向け所定の位置に固定する。
- SRC造
 - あばら筋の配筋前に、鋼管スリーブにMAXウェブレンを掛け、仮置きする。
 - あばら筋を配筋後、枝鉄筋を下側または上側に向け所定の位置に固定する。

(2) MAXウェブレンの取り付け方向

MAXウェブレンはあばら筋に対して環状鉄筋が45° になるように取り付ける。



PROJECT (仮称)練馬区関町北1MPJ 新築工事	OKWave	SIGN	訂正 月日	DATE	特記事項	PROJECT NO	株式会社 暁建設 一級建築士事務所
TITLE MAXウェブレン標準仕様書	SCALE 1/ NONSCALE	DATE 2023年 10月 16日				SHEET NO S-06	1級建築士登録 第185063号 一級建築士 黒崎 信之

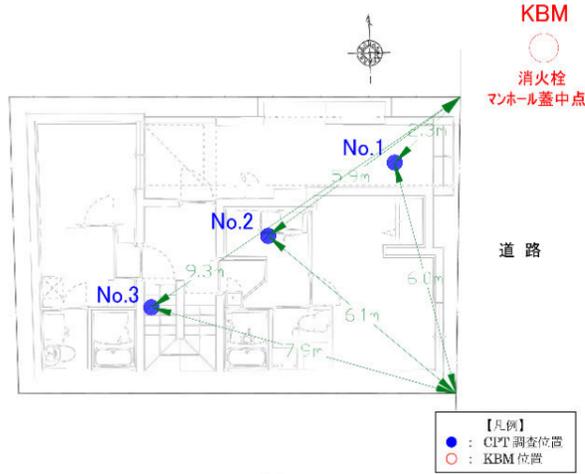


図-1.2 調査位置

(4) 実施数量

表-1.1 実施数量表

KBM 土層	終了深度		地下水位		備考
	GL-m	KBM土層	GL-m	KBM土層	
No. 1	0.010	9.64	-9.630	6.15	探検時に地中より貫入終了とした
No. 2	0.036	9.65	-9.614	6.20	探検時に地中より貫入終了とした
No. 3	0.107	9.64	-9.533	6.22	探検時に地中より貫入終了とした

2. 調査結果

2.1. 直接基礎下地盤の土質定数

本調査結果における推定土質定数を以下に記す。

表-2.1 土質定数平均 (No1 地点)

土層	深度 KBM (m)	単位体積 重量 γ (kN/m ³)	非排水せん断強度 C_u (kN/m ²)	有効せん断抵抗角 ϕ' (°)	圧密降伏 応力 P_p (kN/m ²)
A層	-1.14	16.5	-	-	-
B層	-5.08	17.4	76	0	370
C層	-8.23	16.6	70	0	309
D層	-9.48	15.1	31	0	128
E層	-9.63	16.2	0	31	-

※ A層は盛土層と推定されるので、単位体積重量のみ記載した。
粘性土層は摩擦角を安全側に「0°」とした。
砂質土層は粘着力を安全側に「0 kN/m²」、摩擦角を安全側に最大40°とした。

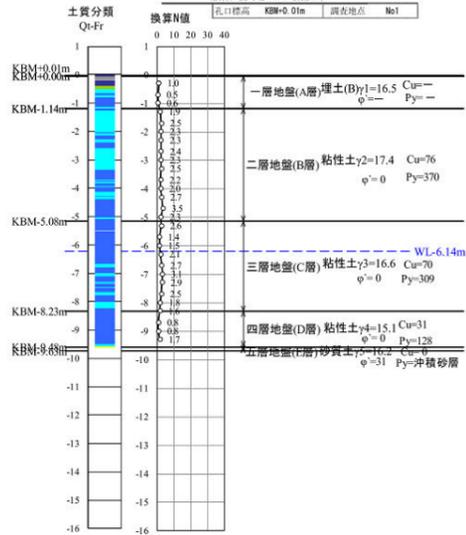


図-2.1 土質定数概要図 (No1 地点)

表-2.2 土質定数平均 (No2 地点)

土層	深度 KBM (m)	単位体積 重量 γ (kN/m ³)	非排水せん断強度 C_u (kN/m ²)	有効せん断抵抗角 ϕ' (°)	圧密降伏 応力 P_p (kN/m ²)
A層	-0.99	17.1	-	-	-
B層	-4.43	17.4	67	0	333
C層	-7.65	17.4	81	0	389
D層	-9.43	15.3	37	0	153
E層	-9.61	19.2	0	39	-

※ A層は盛土層と推定されるので、単位体積重量のみ記載した。
粘性土層は摩擦角を安全側に「0°」とした。
砂質土層は粘着力を安全側に「0 kN/m²」、摩擦角を安全側に最大40°とした。

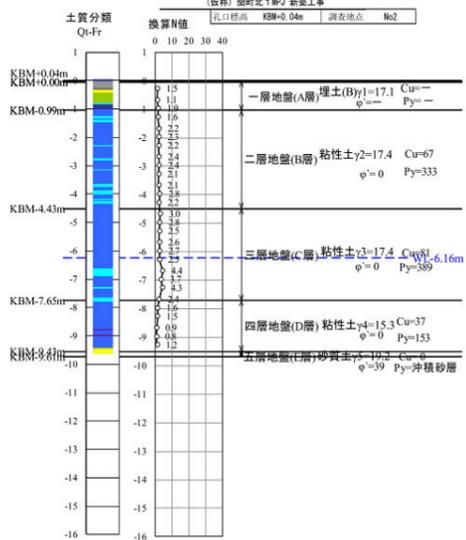


図-2.2 土質定数概要図 (No2 地点)

表-2.3 土質定数平均 (No3 地点)

土層	深度 KBM (m)	単位体積 重量 γ (kN/m ³)	非排水せん断強度 C_u (kN/m ²)	有効せん断抵抗角 ϕ' (°)	圧密降伏 応力 P_p (kN/m ²)
A層	-1.01	16.8	-	-	-
B層	-4.97	17.3	59	0	294
C層	-8.16	16.7	62	0	282
D層	-9.13	15.0	19	0	88
E層	-9.53	19.1	0	38	-

※ A層は盛土層と推定されるので、単位体積重量のみ記載した。
粘性土層は摩擦角を安全側に「0°」とした。
砂質土層は粘着力を安全側に「0 kN/m²」、摩擦角を安全側に最大40°とした。

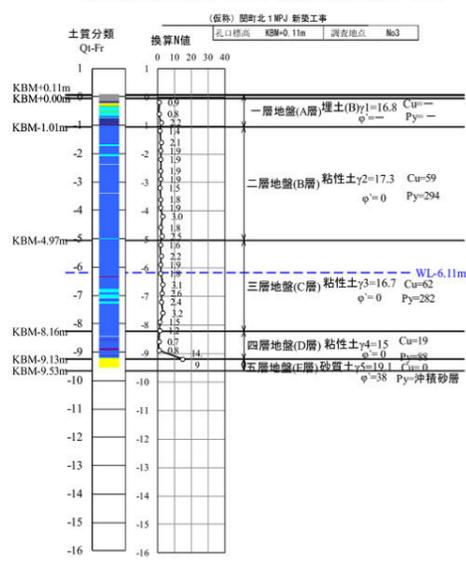


図-2.3 土質定数概要図 (No3 地点)

計画建物の直接基礎に於ける基礎地盤の検証

工事場所：(仮称)練馬区関町北1MPJ 新築工事 RC4階建て

調査結果の平均土質定数まとめ (電気式コーン貫入試験)

RC4階建の接地圧 $F_e=115\text{kN/m}^2$

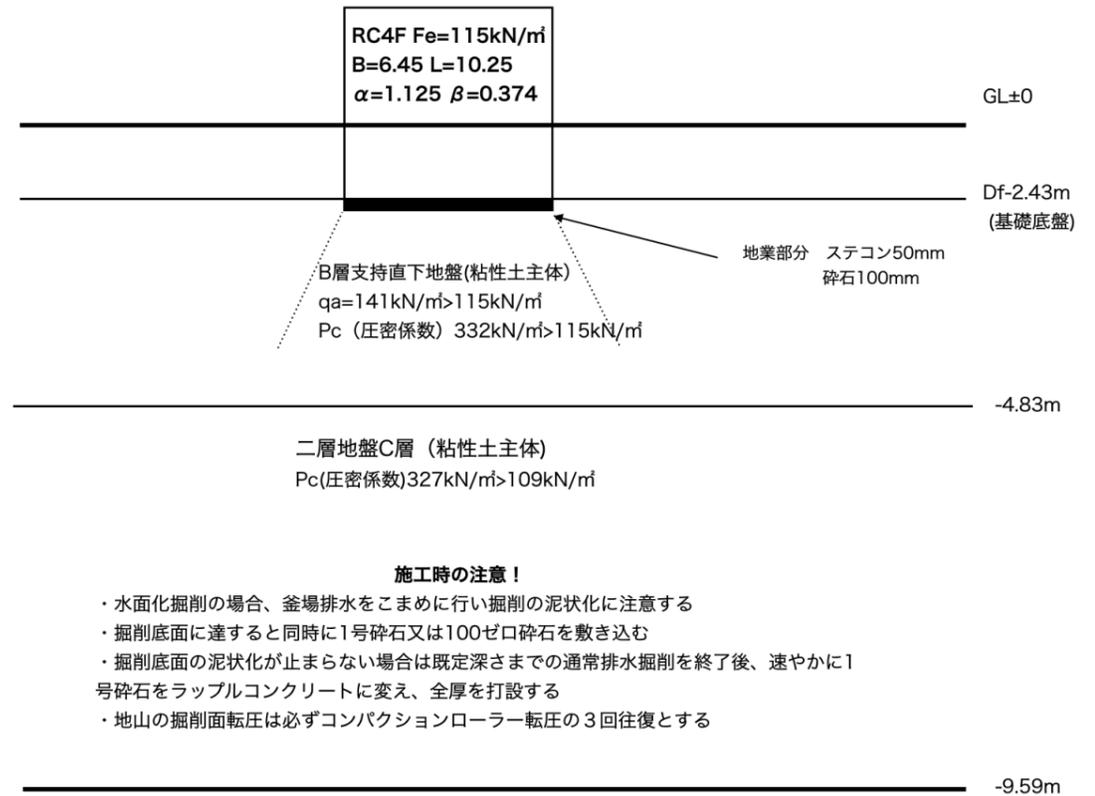
土層	土質	GL(m)	γ 1 (kN/m ³)	C(kN/m ²)	ϕ (度)	Pc(圧密係数)
A層	埋め戻し土	-1.05	16.8	-	-	-
B層	粘性土主体	-4.83	17.4	67	-	332
C層	粘性土主体	-8.07	16.9	71	-	327
D層	粘性土主体	-9.35	15.1	29	-	123
E層	砂質土主体	-9.59	18.2	-	36	-

*A層は根伐り層としている

*以下の算定は基準法93条の告示1113条の地盤の許容応力計算式に準拠しています
 $q_a=1/3(\alpha \cdot C \cdot N_c + \beta \cdot \gamma_1 \cdot B \cdot N_r + \gamma_2 \cdot D_f \cdot N_q)$

B層支持の場合 $q_a=1/3 [1.125(\alpha) \cdot 67(C) \cdot 5.1(N_c)] + 1/3 [16.8(\gamma_2) \cdot 2.43(D_f)] = 141\text{kN/m}^2$

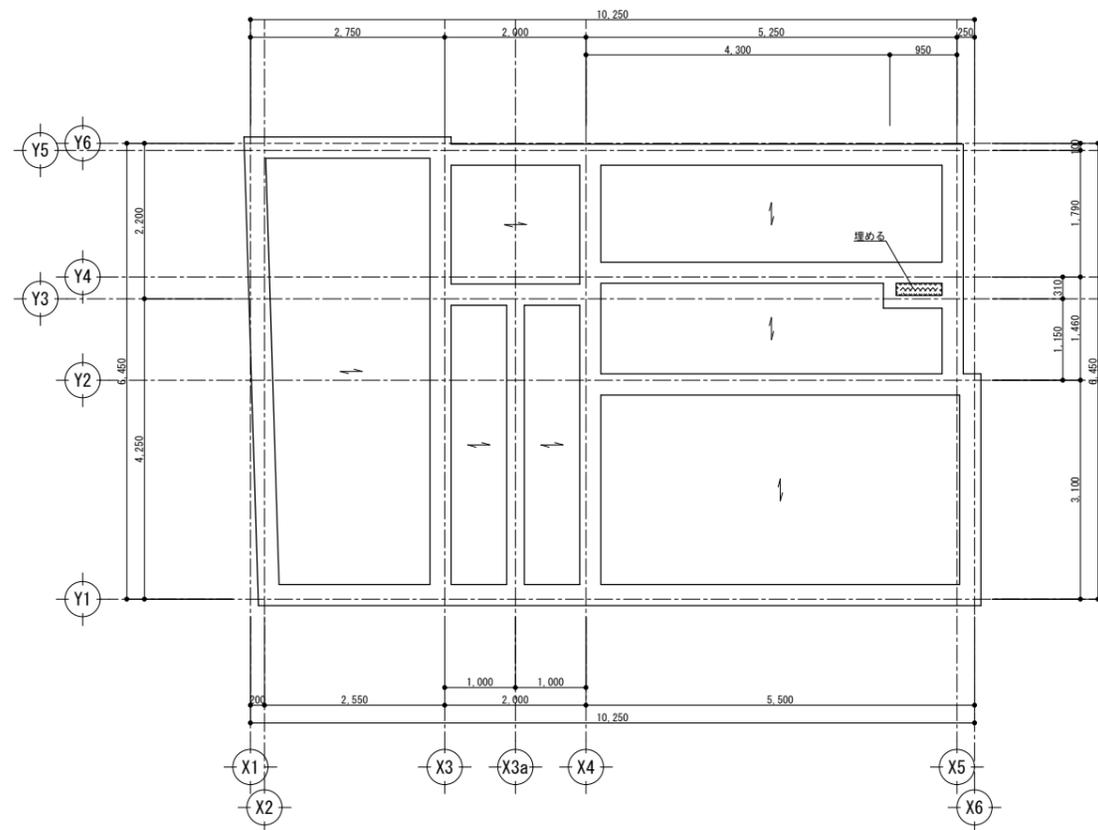
B層直接基礎の支持力 $q_a=141\text{kN/m}^2 > 115\text{kN/m}^2$



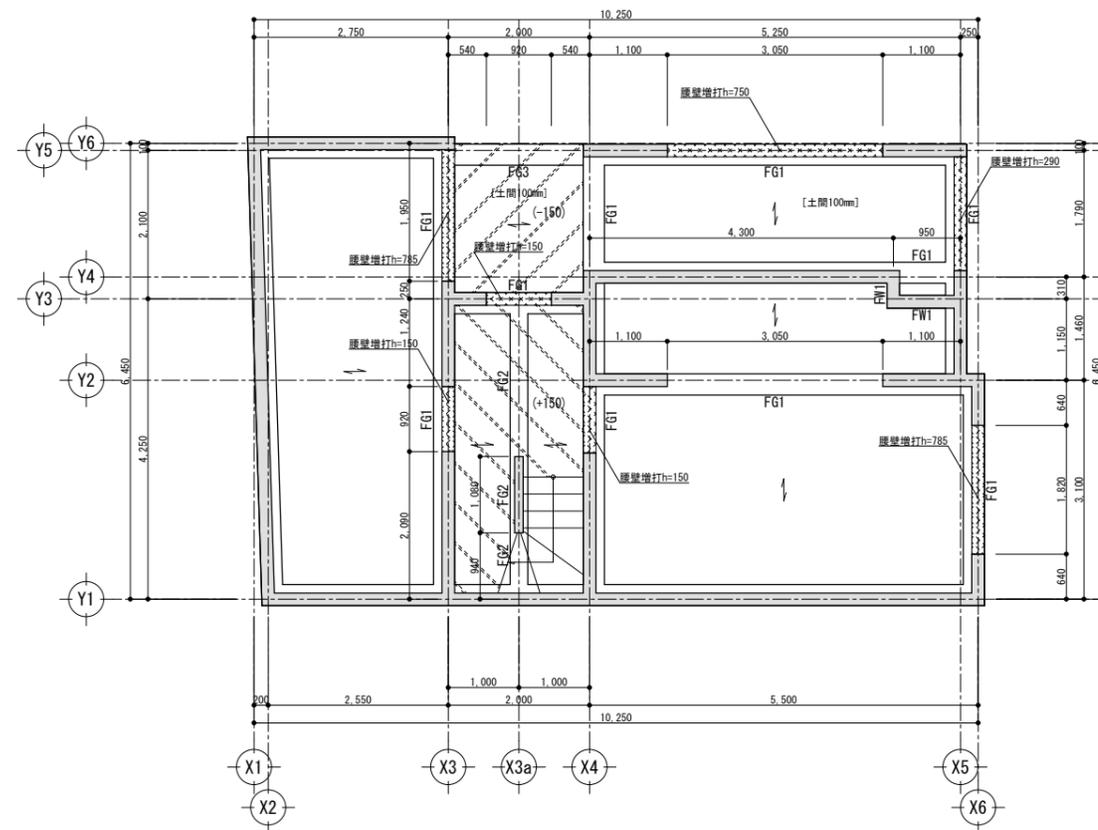
施工時の注意!

- ・水面化掘削の場合、釜場排水をこまめに行い掘削の泥状化に注意する
- ・掘削底面に達すると同時に1号砕石又は100ゼロ砕石を敷き込む
- ・掘削底面の泥状化が止まらない場合は既定深さまでの通常排水掘削を終了後、速やかに1号砕石をラップルコンクリートに変え、全厚を打設する
- ・地山の掘削面転圧は必ずコンパクションローラー転圧の3回往復とする

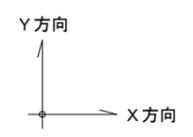
PROJECT (仮称)練馬区関町北1MPJ 新築工事	OKWave	SIGN	訂正月日	DATE	特記事項	PROJECT NO	株式会社暁建設一級建築士事務所
TITLE 地盤関係図	SCALE 1/ NONSCALE	DATE 2023年 10月 16日				SHEET NO S-07	1級建築士登録 第185063号 一級建築士 黒崎 信之



耐圧版・ピット配置図



基礎・1階床伏図



地盤関係
 地盤に関する条件は下記による。
 1. 設計地耐力 : 115kN/m²
 2. 基礎形式 : べた基礎
 3. 熱壁補強 : 無し

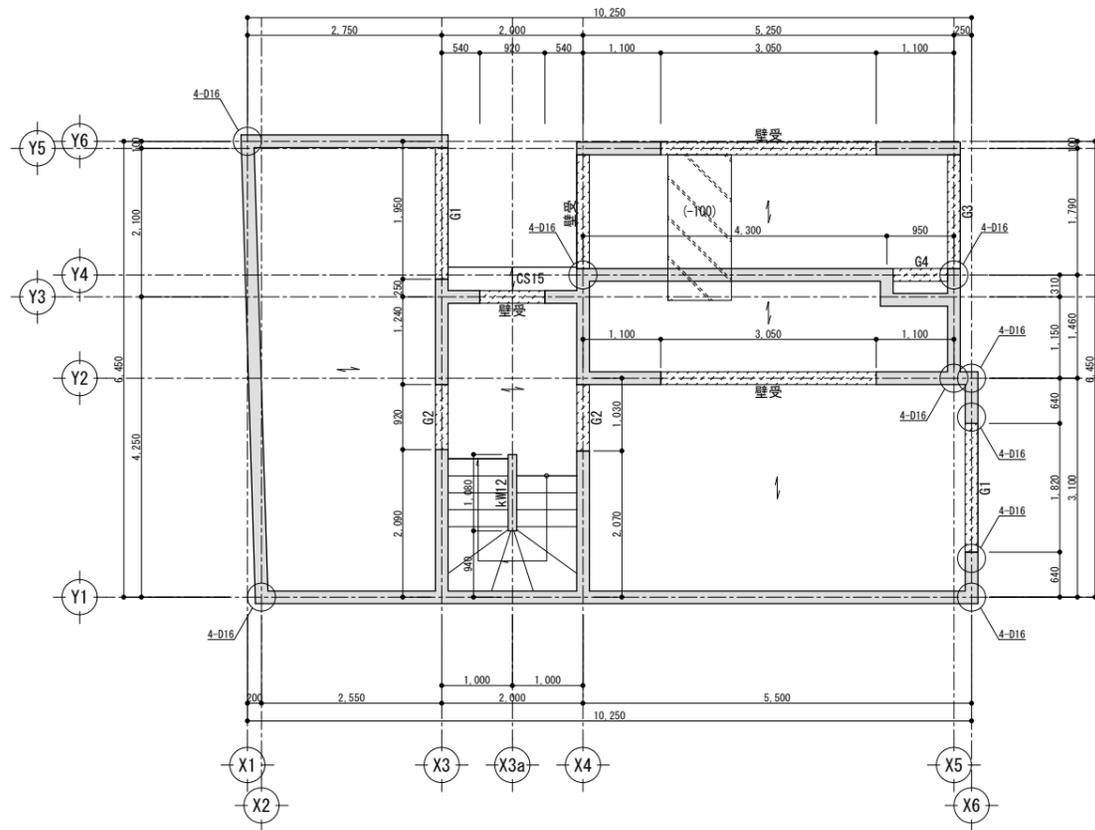
共通事項
 特記なき限り下記とする。
 1. SGL = 平均GL-130mm
 2. 1FSL = SGL-500mm = 平均GL-630mm
 3. 耐圧版下端はSGL-2,430mm = 1FSL-1,800mm
 4. 基礎梁天端 = B1SL±0
 ※スラブ高低差が存在する場合は特記高低差に従う。
 5. 基礎梁下端 = B1SL-1,800mm
 6. 耐圧版は、FS40とする。
 7. 基礎梁は、FG1とする。

8. スラブは、S15とする。
 9. → : 耐圧版・スラブの主筋方向を示す。
 10. () : スラブの高低差を示す。
 11. スラブ隅には、S-18に示すスラブ補強を行うこと。
 12. 基礎配筋は壁内を通し配筋とする。

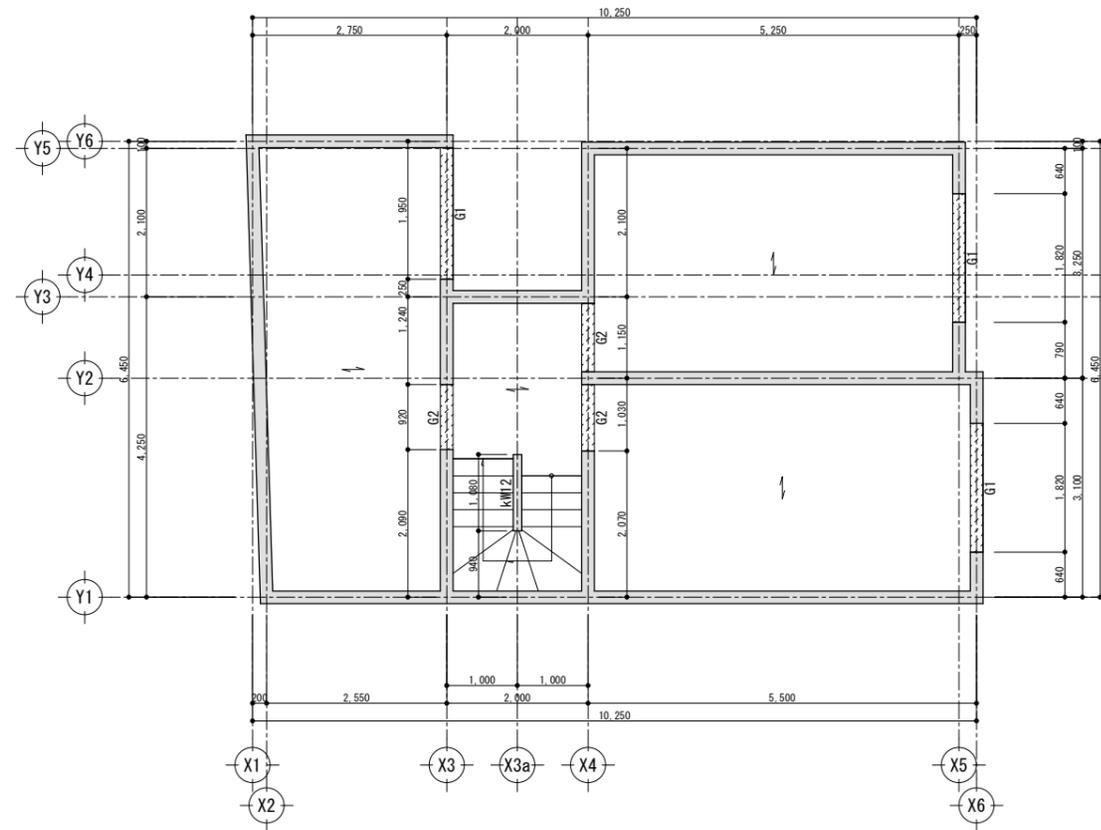
注意事項
 下記を注意すること。
 1. 基礎梁の鉄筋の被りを確保すること。
 壁配筋との取合いは、50mm程度基礎芯を外にずらすことは可とする。
 2. 開口周囲の増打ち寸法は意匠図に従い、施工図にて決定すること。
 3. 基礎への開口はMAXウエブレンを用いて補強計画を行い、設計者の承認を得ること。
 4. 耐力壁壁下部にも壁を受けるために全体にわたりFG1を施工すること。
 5. 耐圧版に設ける釜場の配筋はS-14詳細図を参照すること。
 釜場位置は施工図にて決定し、設計者の承認を得ること。

PROJECT (仮称)練馬区関町北1MPJ 新築工事		OKWave	SIGN	訂正 月日	DATE	特記 事項	PROJECT NO	株式会社暁建設一級建築士事務所
TITLE 構造伏図(1)		SCALE 1/100	DATE 2023年 10月 16日		DATE		SHEET NO S-08	

構造設計 一級建築士 第354113号 佐藤 雅則



1階壁・2階床伏図



2階壁・3階床伏図

共通事項

特記なき限り下記とする。

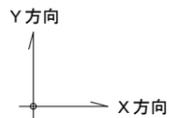
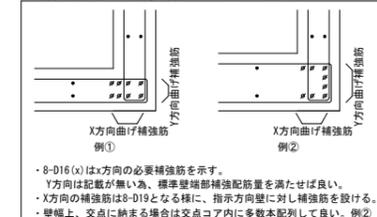
1. 梁天端とスラブ天端に高低差が生じる場合は、梁天端をスラブ天端まで増打ちすること。
2. 耐力壁は、W18とする。
3. 耐力壁端部の曲げ補強筋は端部補強筋リストによる。ただし、図中に特記が有る場合は特記に従うこと。
○ : 端部補強筋特記部を示す。
4. スラブは、S15とする。

注意事項

下記を注意すること。

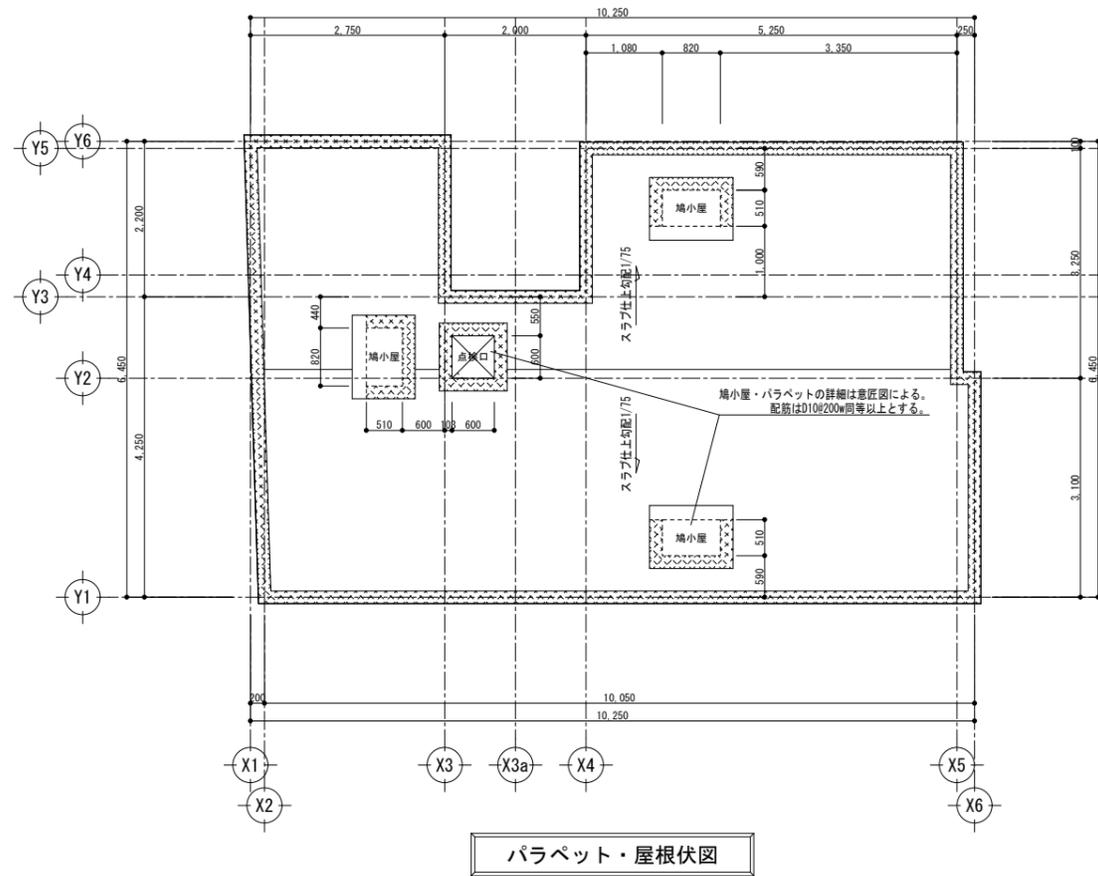
1. 開口周囲の増打ち寸法は意匠図に従い、施工図にて決定すること。
2. 壁符号は各階共通であるが、壁梁符号は各階で異なるため注意すること。
3. スラブ高低差処理はS-05の標準図にしたがうこと。

配筋要領 (曲げ補強筋8-D16(x)の場合)



PROJECT (仮称)練馬区関町北1MPJ 新築工事	OKWave	SIGN	訂正月日	DATE	特記事項	PROJECT NO	株式会社暁建設一級建築士事務所 1級建築士登録 第185063号 一級建築士 黒崎 信之
TITLE 構造伏図 (2)	SCALE 1/100	DATE 2023年 10月 16日				SHEET NO S-09	

構造設計 一級建築士 第354113号 佐藤 雅則

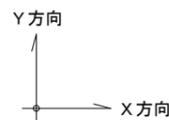


パラペット・屋根伏図

共通事項

特記なき限り下記とする。

1. : パラペットを示す。
2. パラペット天端は、RSL+200(仕上)とする。
3. パラペット幅は、180mmとする。

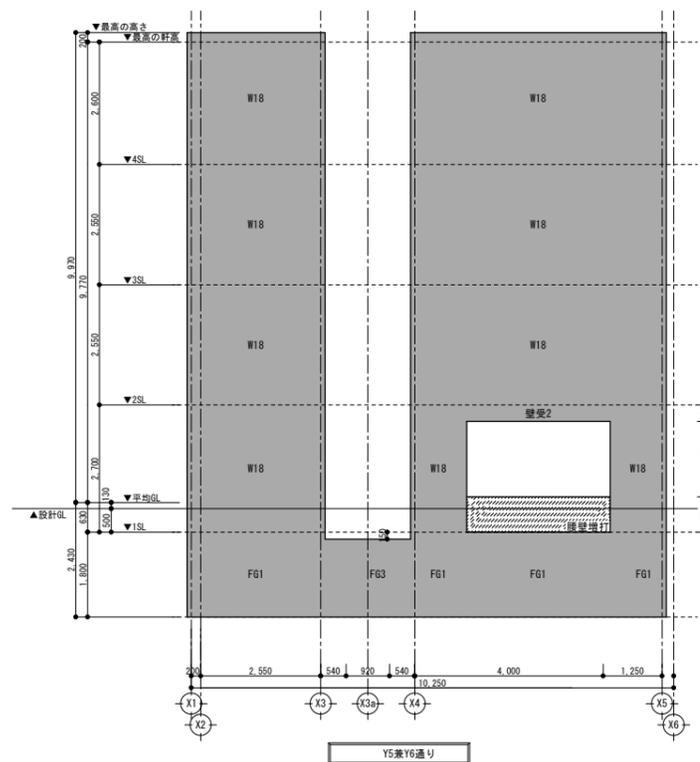
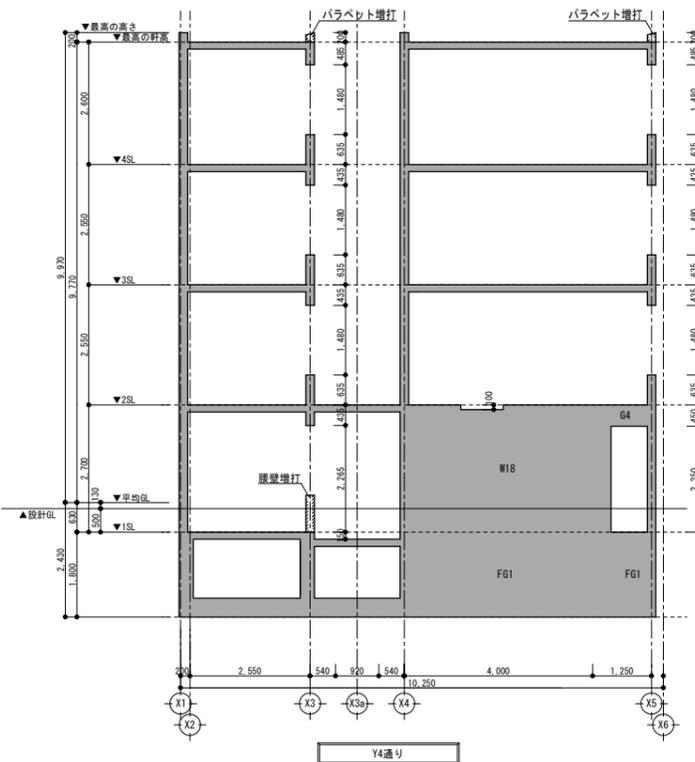
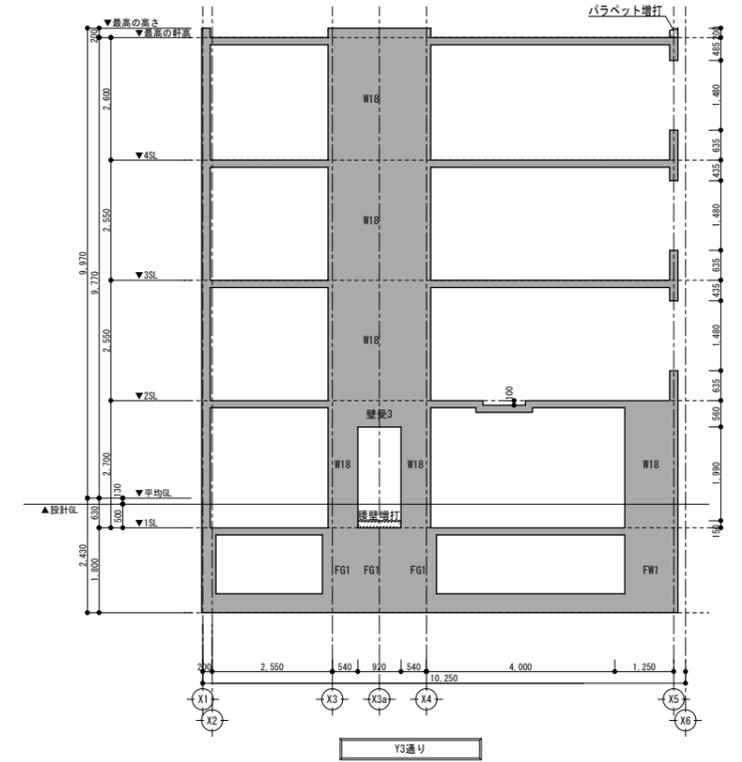
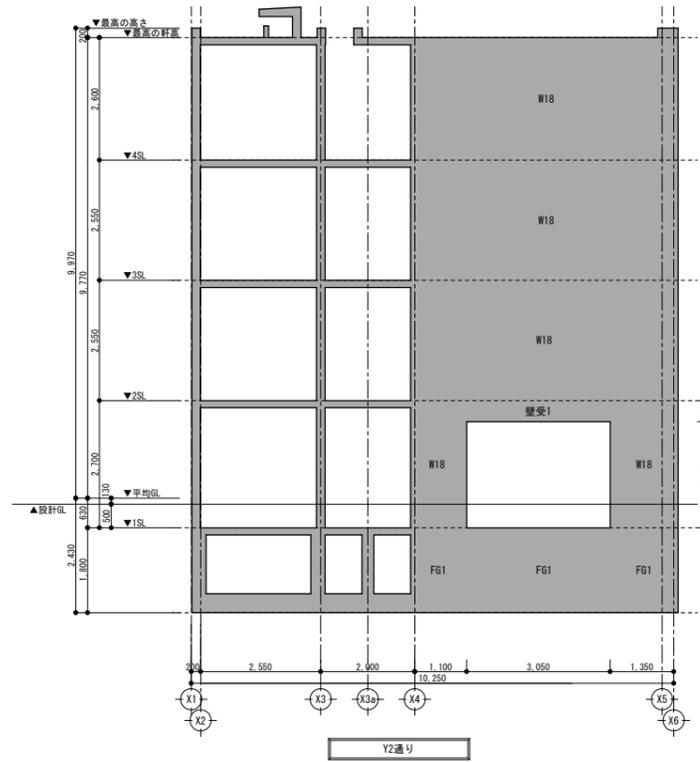
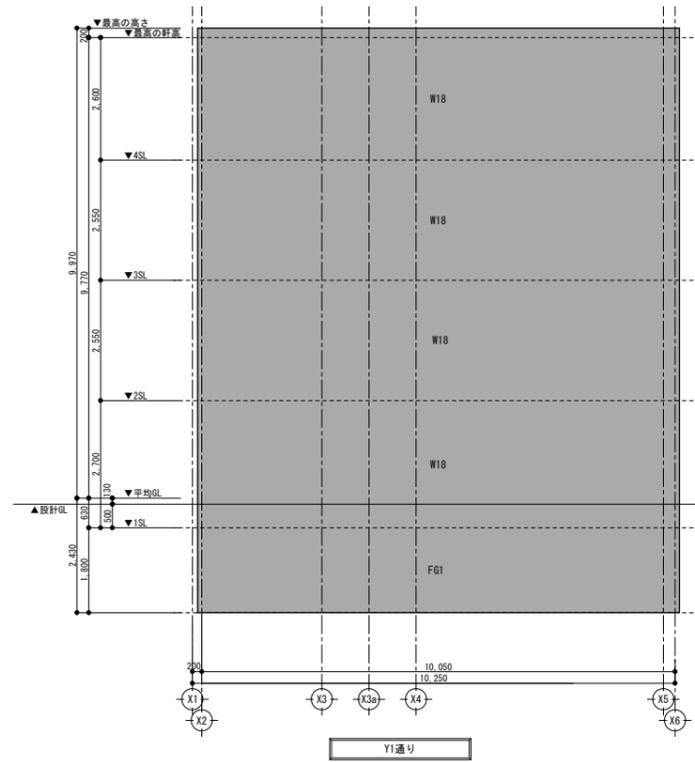


注意事項

下記を注意すること。

1. 開口周囲の増打ち寸法は意匠図に従い、施工図にて決定すること。
2. 壁符号は各階共通であるが、壁梁符号は各階で異なるため注意すること。
3. 各階パラペット配置は、本パラペット・屋根伏図を参照すること。
4. 4階R階のパラペット部梁は、パラペット天端まで増し打ちすること。

PROJECT (仮称)練馬区関町北1MPJ 新築工事	OKWave	SIGN	訂正 月日	DATE		特記 事項	PROJECT NO	株式会社暁建設一級建築士事務所 1級建築士登録 第185063号 一級建築士 黒崎 信之
TITLE 構造伏図(4)	SCALE 1/100	DATE 2023年 10月 16日					SHEET NO S-11	

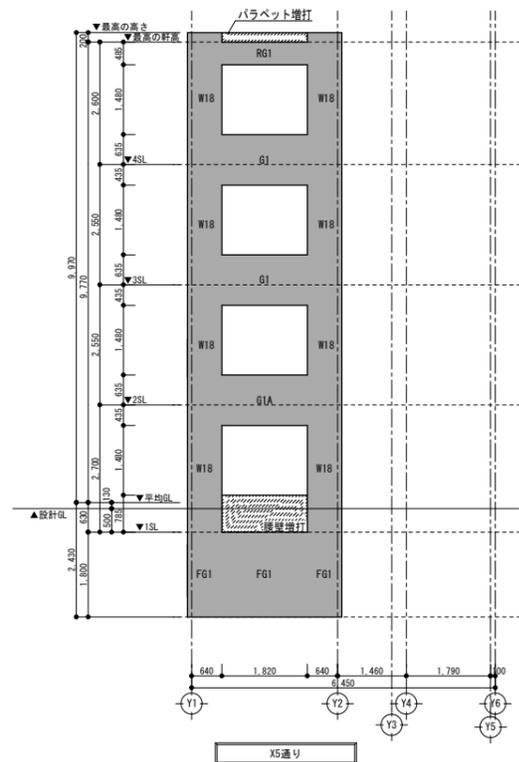
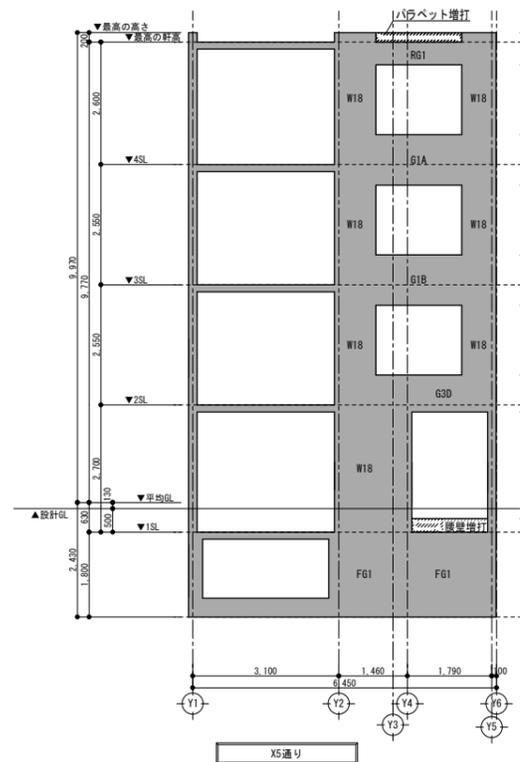
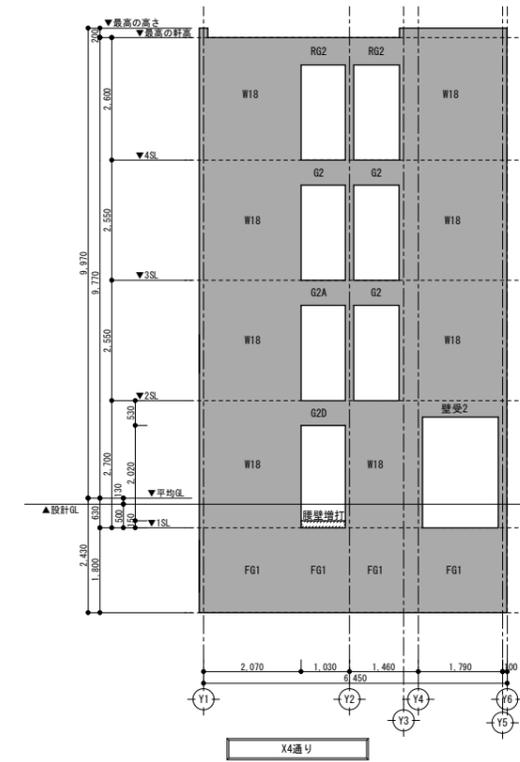
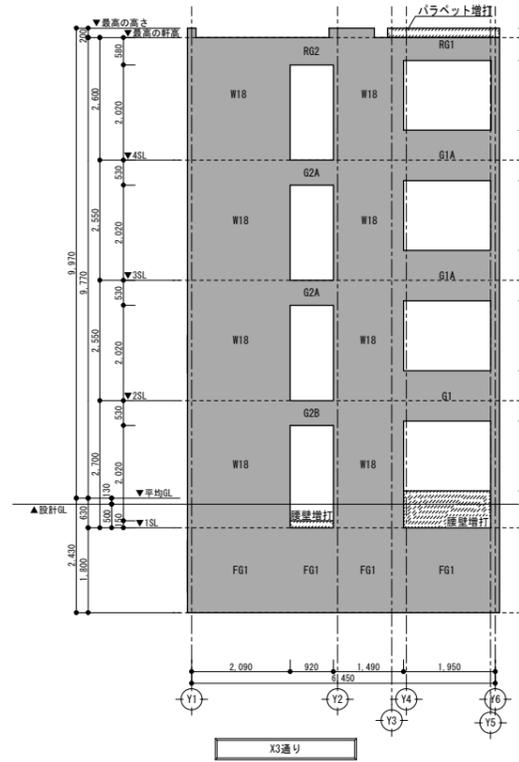
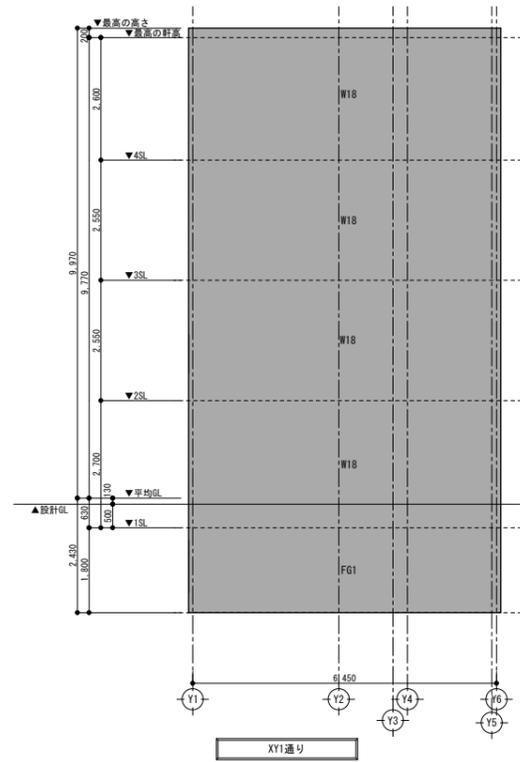


共通事項

- 特記なき限り下記とする。
1. SGL = 平均GL-130mm
 2. 耐力壁下も壁受けとしてFG1を配置すること。
 3. 耐力壁はW18
 4. 耐力壁は芯振分けとする。
 - 5.

PROJECT (仮称)練馬区関町北1MPJ 新築工事	OKWave	SIGN	訂正月日	DATE		特記事項	PROJECT NO	株式会社暁建設一級建築士事務所
TITLE 構造軸組図(1)	SCALE 1/150	DATE 2023年 10月 16日						

構造設計 一級建築士 第354113号 佐藤 雅則



- 共通事項**
- 特記なき限り下記とする。
1. SGL = 平均GL-130mm
 2. 耐力壁下も壁受けとしてFG1を配置すること。
 3. 耐力壁はW18
 4. 耐力壁は芯振分けとする。
 - 5.

PROJECT (仮称)練馬区関町北1MPJ 新築工事		OKWave	SIGN	訂正月日	DATE	特記事項	PROJECT NO	株式会社暁建設一級建築士事務所
TITLE 構造軸組図(2)		SCALE 1/150	DATE 2023年 10月 16日		DATE		SHEET NO S-13	

構造設計 一級建築士 第354113号 佐藤 雅則

基礎大梁リスト 1/50

符号	FG 1	FG 2	FG 3	FW 1
位置	全断面	全断面	全断面	全断面
B x D	300 x 1800	250 x 1800	300 x 1650	180 x 1800
上端筋	3-D19	2-D19	3-D19	2-D13
下端筋	3-D19	2-D19	3-D19	2-D13
腹筋	10-D13	10-D13	8-D13	10-D10
STP	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D10@200

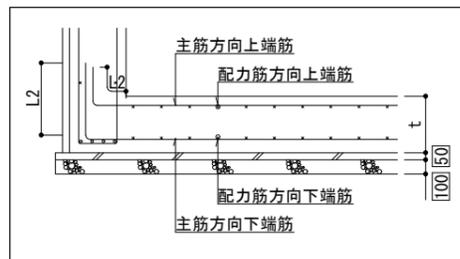
基礎小梁リスト 1/50

符号			
位置			
B x D			
上端筋			
下端筋			
腹筋			
STP			

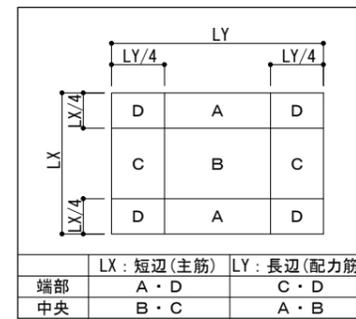
耐圧版リスト

符号	版厚 t	位置	短辺 (主筋)		長辺 (配力筋)	
			端部	中央	端部	中央
FS 40	400	上端筋	D19@200	←同じ	D16@200	←同じ
		下端筋	D19@200	←同じ	D16@200	←同じ
備考			・スラブ高低差に関しては、基礎伏図を参照すること。 ・鉄筋径が端部と中央で異なり施工上配筋が困難な場合、径の大きい鉄筋を通し配筋すること。			

耐圧版配筋要領



配筋位置キープラン



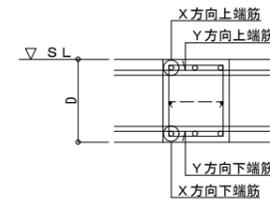
使用材料

- 特記なき限りは下記とする。
- D10~D16 : SD295
 - D19~ : SD345
 - コンクリート : FC24

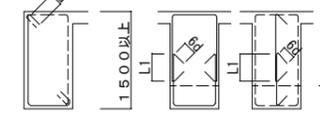
備考

※基礎大梁、基礎小梁共通

- 巾止筋はD10-@100以内とする。
- X方向の地中梁主筋を外側に配置する事。



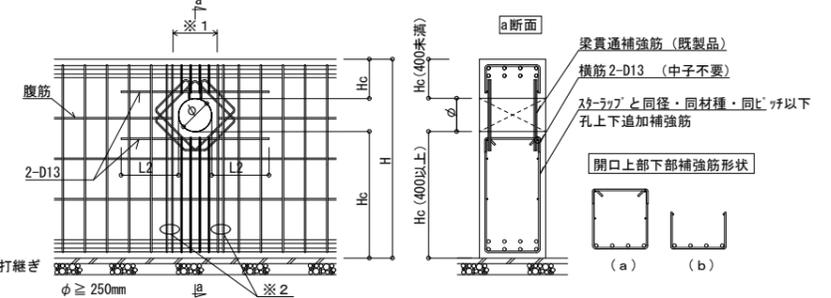
- スラブと地中梁にレベル差がある場合は増打処理をする。
※各部配筋詳細参照。
- 中吊筋がある場合、かんざし筋をもうけること。
- 地中梁も原則として、一般形状の場合によるが、梁せいの大きい場合は下記の配筋も可とする。
D=1500以上又は打ち継ぎの有る場合



- 地業：土に接する梁の地業は下記の通りとする。
捨コンクリート厚 -50
砕石厚 -100

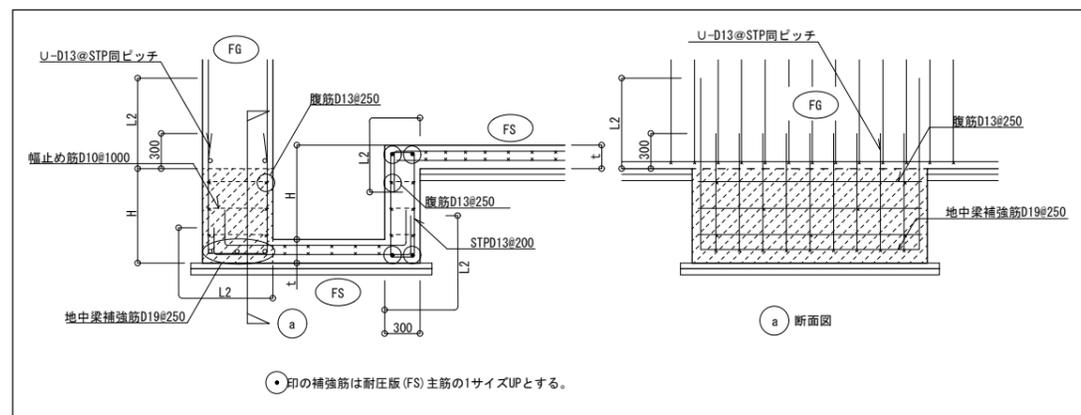
- FCG先端配筋要領は各部配筋詳細参照。
- 地中梁スリーブ補強

- 貫通スリーブ補強は、スリーブ外径が100未満は不要とし、100以上は既製品(大臣認定品)を用いることとする。
- スリーブ外径が100未満を設けることにより、スターラップのピッチが設計値より+50以上となる場合、スリーブ際のスターラップはダブル巻きとする。(100以上、250未満のスリーブは既製品メーカーの計算による)
- 基礎梁において、貫通スリーブは縦方向に2個以上の設置は不可とする。(通水管の併用は除く) 但し、ダイヤレンS/MAXリンプレンを使用する場合は別途検討を行い、監理者に承認を受ければ使用可とする。
- 地中梁スリーブ上下追加補強要領 (スリーブ外径250φより適用) Hcが400以上の場合は(a)、Hcが400未満の場合は(b)の形状とする。但し、Hcが400以上の場合において地中梁多段筋等との納まりで(a)とできない場合は(b)の形状も可とする。

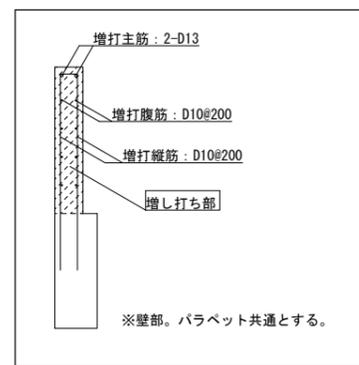


- 孔上下追加補強筋(スターラップ形状) : スターラップと同径・同材種 同ピッチ以下とする。(中子不要)
- 孔際スターラップ : ダブル巻きとする

釜場配筋要領



増打ち要領



※壁部。バラベット共通とする。

壁リスト 1/40

符号	W18		KW12 (雑壁)		
断面					
縦筋	D10@200		D10@200		
横筋	D10@200		D10@200		
開口補強 (端部補強)	縦	※下表による	2-D10		
	横		2-D10		
	斜め	2-D13	2-D10		

■開口補強筋(端部補強筋)の縦筋配筋リスト

階数	開口補強筋(端部補強筋)の縦筋		注意事項等
	端部	交差部	
4階壁	2-D13	4-D13	・構造伏図に開口補強筋の特記がある場合は、特記の記載に準じて開口縦筋補強を行うこと。 ・一貫入力 2-D16(at=398)→4-D13(at=508)は可とする。
3階壁	2-D13	4-D13	
2階壁	2-D16	4-D13	
1階壁	2-D16	4-D13	

補強要領

<p>開口部補強筋</p> <p>・補強筋は壁リストを参照。</p>	<p>耐力壁交差部補強</p> <p>・※の鉄筋径は、壁リスト・伏図を参照すること。</p>	<p>開口部補強筋(雑壁)</p> <p>・雑壁の開口補強筋 縦筋・横筋：2-D13以上 斜め筋：2-D13以上</p>	<p>インターホン・スリーブ補強(耐震壁)</p> <p>・開口は口200程度まで都市、それとなる場合は、監理者に確認すること。 ・壁筋を切断しない場合も補強すること。 ・開口補強筋 縦筋・横筋：2-D13以上 斜め筋：2-D13以上</p>	<p>スリーブ補強(雑壁)</p> <p>・開口は、100<D≤200とする。 ・開口補強筋 斜め筋：1-D13以上</p>
------------------------------------	--	--	---	--

共通事項

- 特記なき限りは下記とする。
1. 巾止筋はD10-@1000以内とする。
 2. 設備配管・電気CD管等の梁内縦貫通を避けること。
 3. 腹筋は壁横筋とし、通し配筋とする。

使用材料

- 特記なき限りは下記とする。
1. D10~D16 : SD295
 2. D19~ : SD345
 3. コンクリート : FC24

備考

1. 曲げ補強筋に関しては伏図に特記がある場合、伏図の特記を優先すること。

PROJECT (仮称)練馬区関町北1MPJ 新築工事	OKWave	SIGN	訂正月日	DATE	特記事項	PROJECT NO	株式会社暁建設一級建築士事務所
TITLE 壁リスト・開口補強要領	SCALE 1/50	DATE 2023年 10月 16日				SHEET NO S-15	

※各階で梁符号が同じでも、配筋・断面は異なるため十分に注意すること。

階	2階床梁						3階床梁					
	符号	G 1	G 1 A	G 2 B	G 2 D	G 3 D	G 4	G 1	G 1 A	G 1 B	G 2	G 2 A
位置	全断面											
▼SL												
B×D	180×1070	180×1070	180×530	180×530	180×785	180×450	180×1070	180×1070	180×1070	180×530	180×530	
上端筋	2-D13	3(2/1)-D13	4(2/2)-D13	4(2/2)-D16	4(2/2)-D16	2-D13	2-D13	3(2/1)-D13	4(2/2)-D13	2-D13	3(2/1)-D13	
下端筋	2-D13	3(2/1)-D13	4(2/2)-D13	4(2/2)-D16	4(2/2)-D16	2-D13	2-D13	3(2/1)-D13	4(2/2)-D13	2-D13	3(2/1)-D13	
腹筋	8-D10	8-D10	4-D10	4-D10	6-D10	2-D10	8-D10	8-D10	8-D10	4-D10	4-D10	
STP	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	

階	4階床梁				R階床梁					
	符号	G 1	G 1 A	G 2	G 2 A	RG 1	RG 2			
位置	全断面									
▼SL										
B×D	180×1070	180×1070	180×530	180×530		180×485	180×580			
上端筋	2-D13	3(2/1)-D13	2-D13	3(2/1)-D13		2-D13	2-D13			
下端筋	2-D13	3(2/1)-D13	2-D13	3(2/1)-D13		2-D13	2-D13			
腹筋	8-D10	8-D10	4-D10	4-D10		2-D10	4-D10			
STP	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200		□-D10@200	□-D10@200			

階	符号	位置
▼SL		
B×D		
上端筋		
下端筋		
腹筋		
STP		

配筋記号

配筋記号は下記により決定している。
 A : 3-D13
 B : 4-D13
 C : 3-D16
 D : 4-D16
 E :
 F :
 -s : D10@100

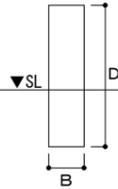
使用材料

特記なき限りは下記とする。
 1. D10~D16 : SD295
 2. D19~ : SD345
 3. コンクリート : FC24

特記

特記なき限りは下記とする。
 1. 巾止筋はD10@1000以内とする。
 2. 設備配管・電気CD管等の梁貫通を避けること。
 3. 腹筋は壁横筋とし、通し配筋とする。

大梁リスト 1/50

階										
符号										
位置										
										
B × D										
上端筋										
下端筋										
腹筋										
STP										

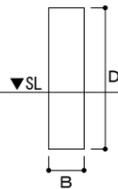
使用材料

- 特記なき限りは下記とする。
- D10～D16 : SD295
 - D19～ : SD345
 - コンクリート : FC24

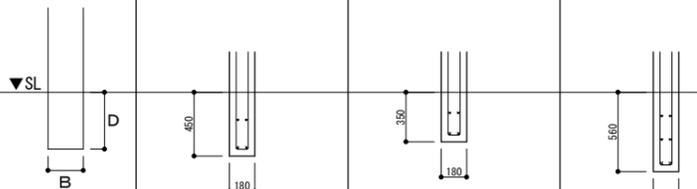
特記

- 特記なき限りは下記とする。
- 巾止筋はD10-@1000以内とする。
 - 設備配管・電気CD管等の梁貫通を避けること。
 - 腹筋は壁横筋とし、通し配筋とする。

小梁リスト 1/50

階	共通				
符号					
位置					
					
B × D					
上端筋					
下端筋					
腹筋					
STP					

壁受リスト 1/50

階	共通			
符号	壁受1	壁受2	壁受3	
位置	全断面	全断面	全断面	
				
B × D	180 × -	180 × -	180 × -	
上端筋	-	-	-	
下端筋	2-D13	2-D13	2-D13	
腹筋	2-D10@200	2-D10@200	2-D10@200	
STP	U-D10@200	U-D10@200	U-D10@200	

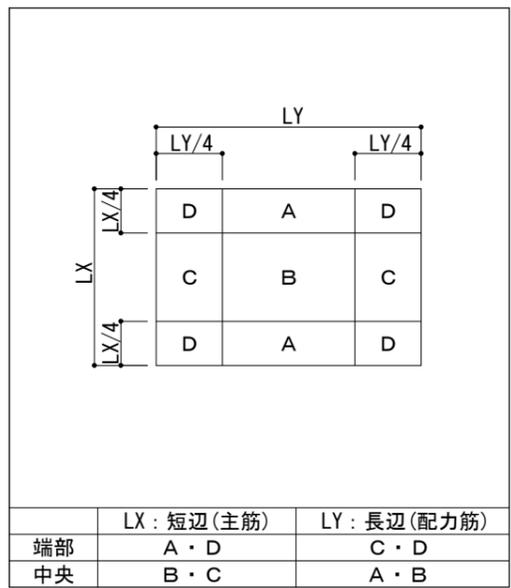
床スラブリスト

符号	版厚 t	位置	主筋 (図面中← 記載方向)		配力筋 (主筋直行方向)	
			端部	中央	端部	中央
S15	150	上端筋	D13, D10@200	←同様	D10@200	←同様
		下端筋	D13, D10@200	←同様	D10@200	←同様
RS15	150	上端筋	D13, D10@200	←同様	D10@200	←同様
		下端筋	D13, D10@200	←同様	D10@200	←同様
CRS15	150	上端筋	D13, D10@200	←同様	D10@200	←同様
		下端筋	D13, D10@200	←同様	D10@200	←同様
備考		・スラブ高低差に関しては、各階伏図を参照すること。 ・鉄筋径が端部と中央で異なり施工上配筋が困難な場合、径の大きい鉄筋を通し配筋すること。				

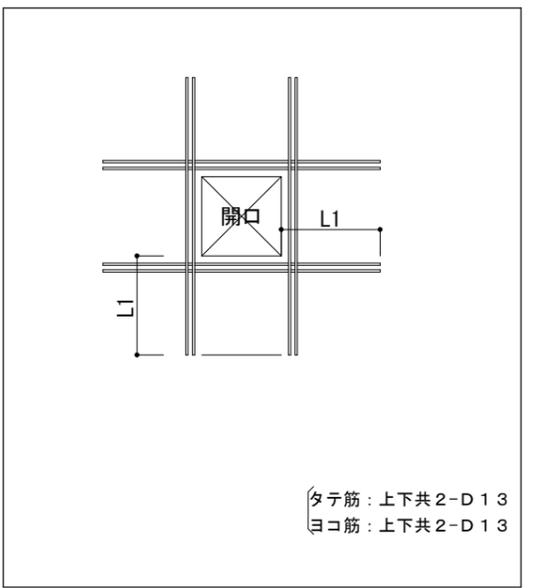
使用材料 ※小梁及び床スラブ共通

- 特記なき限りは下記とする。
- D10~D16 : SD295
 - D19~ : SD345
 - コンクリート : FC24

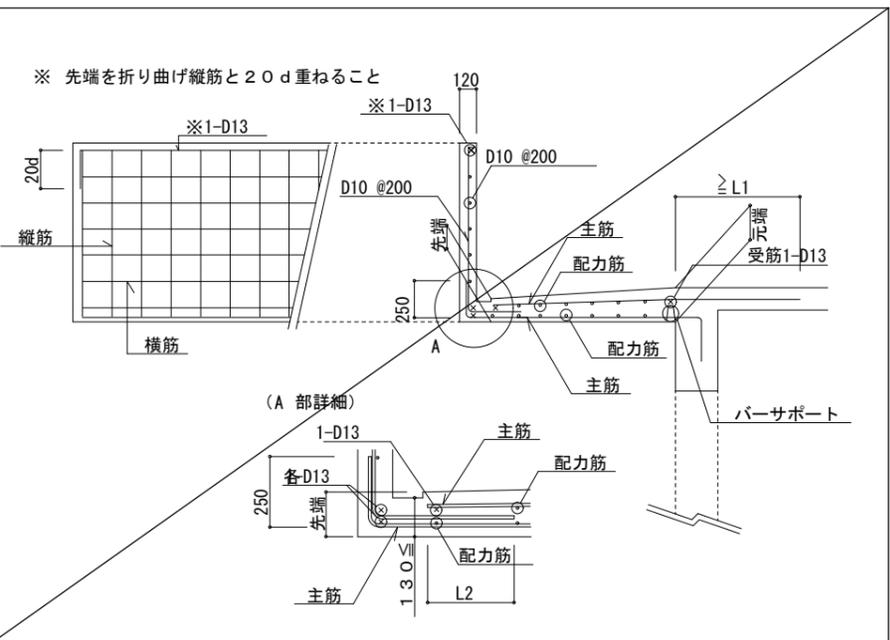
配筋位置キープラン



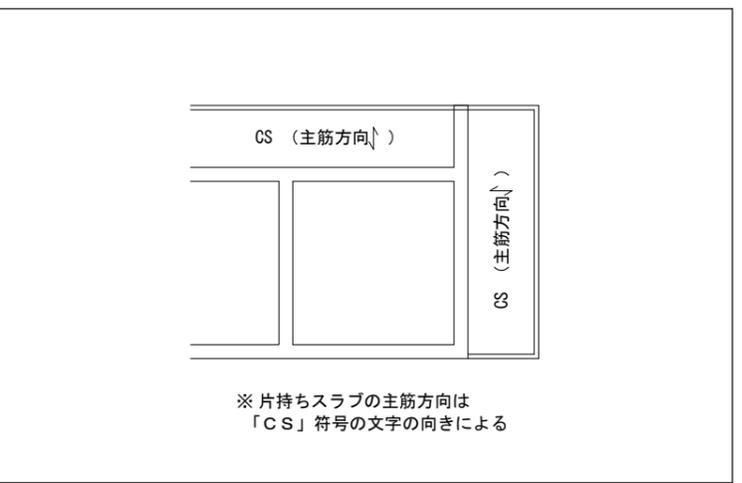
屋上天窓開口補強要領



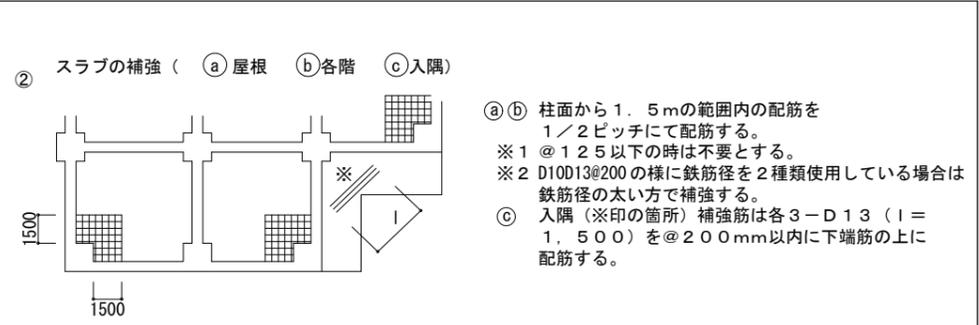
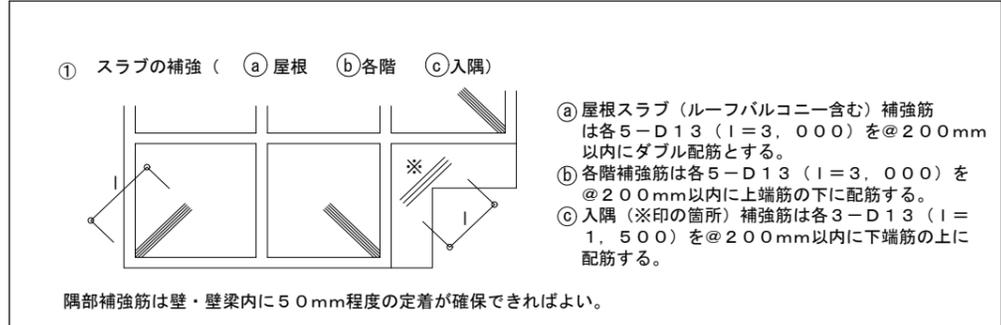
片持ちスラブ先端手すり配筋要領



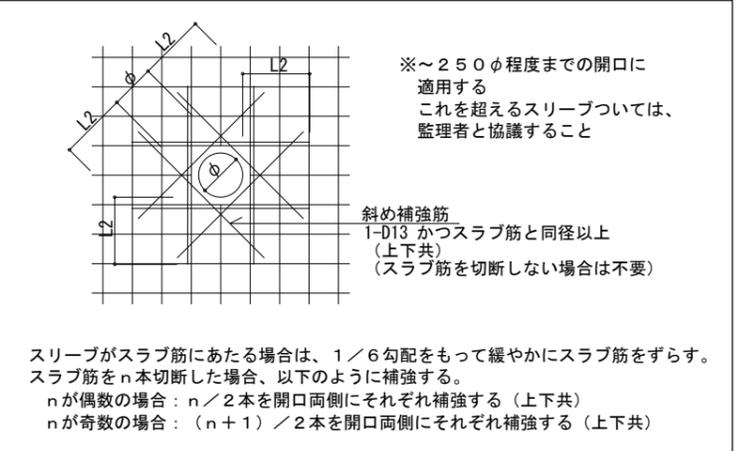
片持ちスラブ (CS符号) 配筋要領図

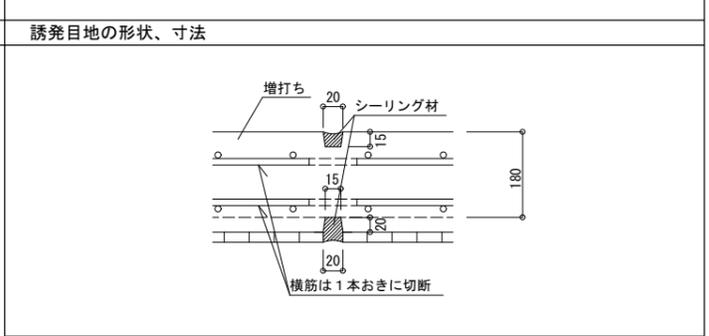
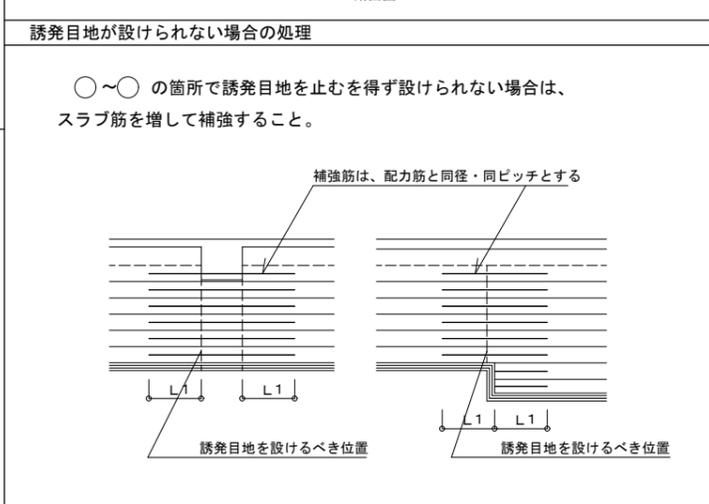
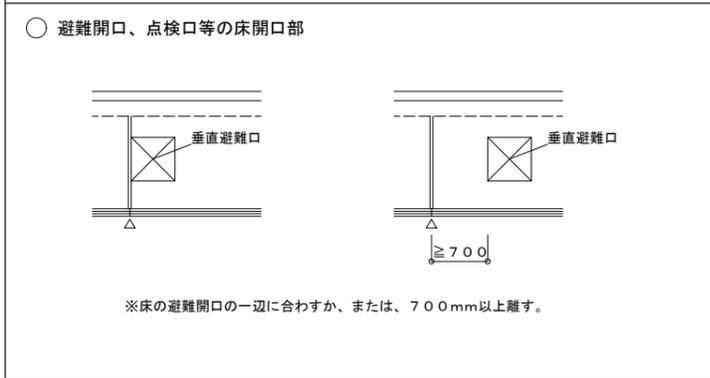
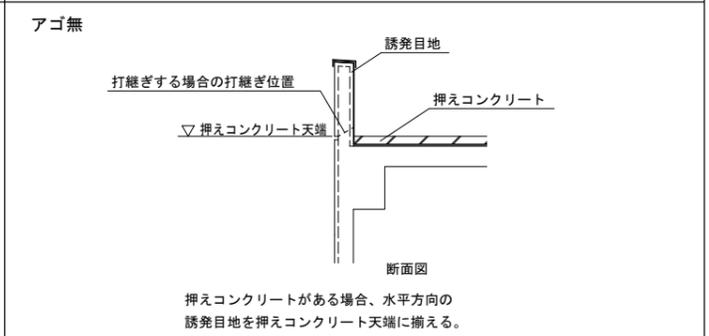
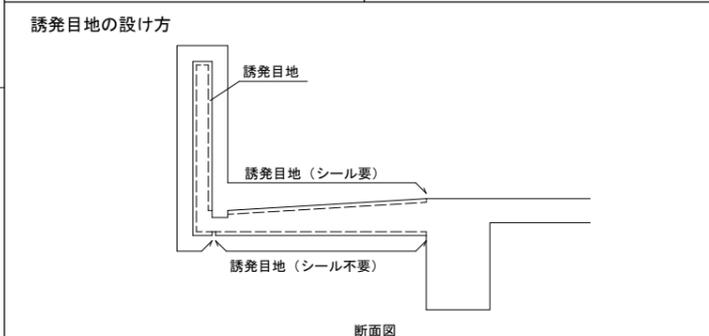
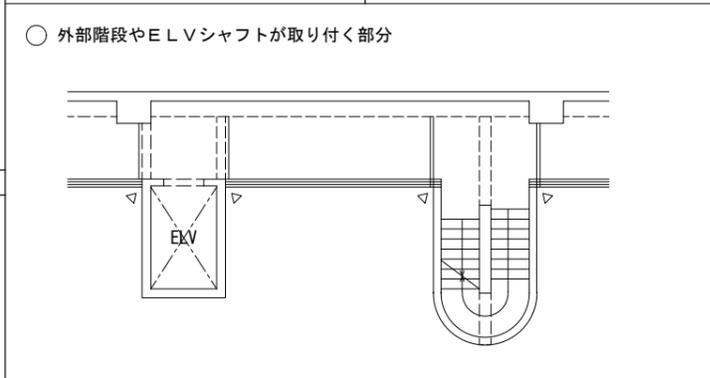
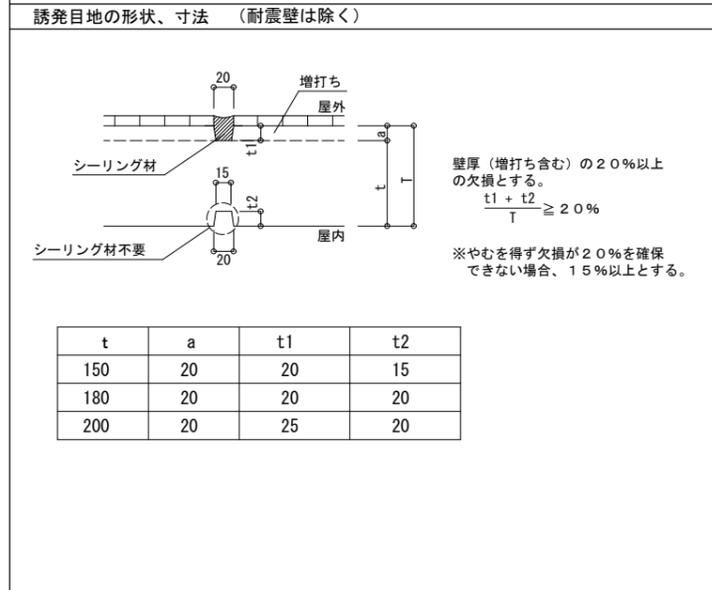
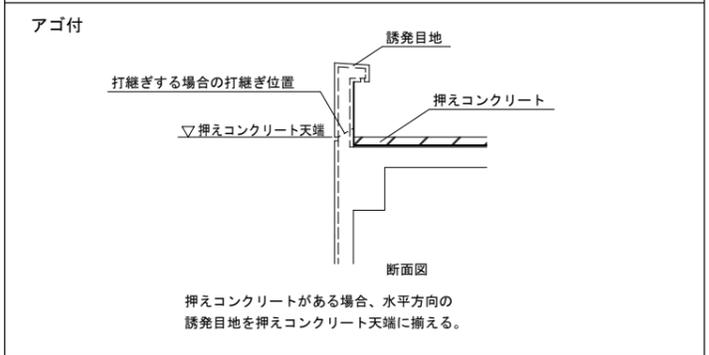
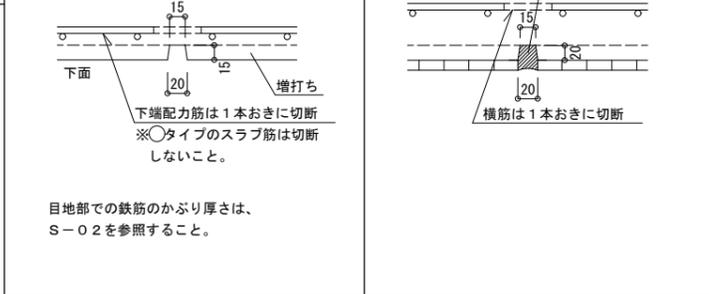
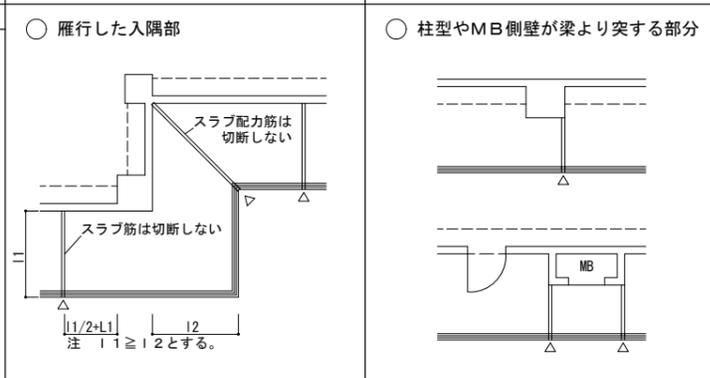
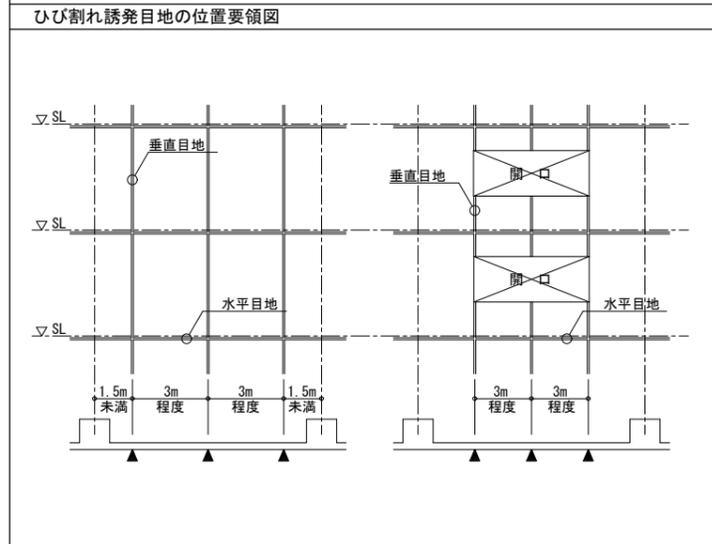
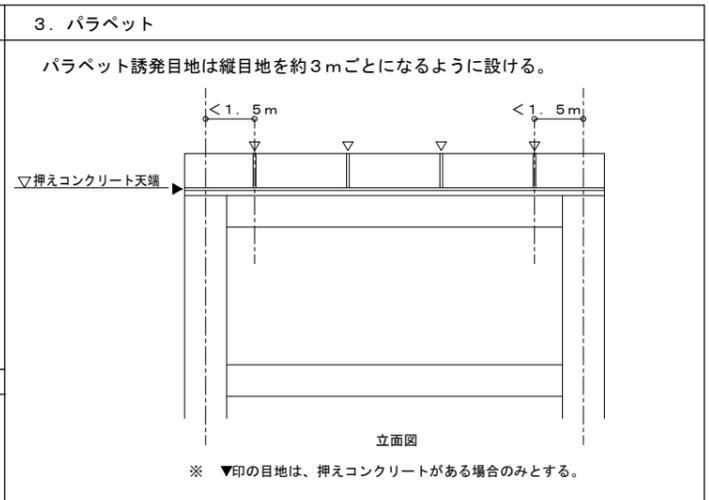
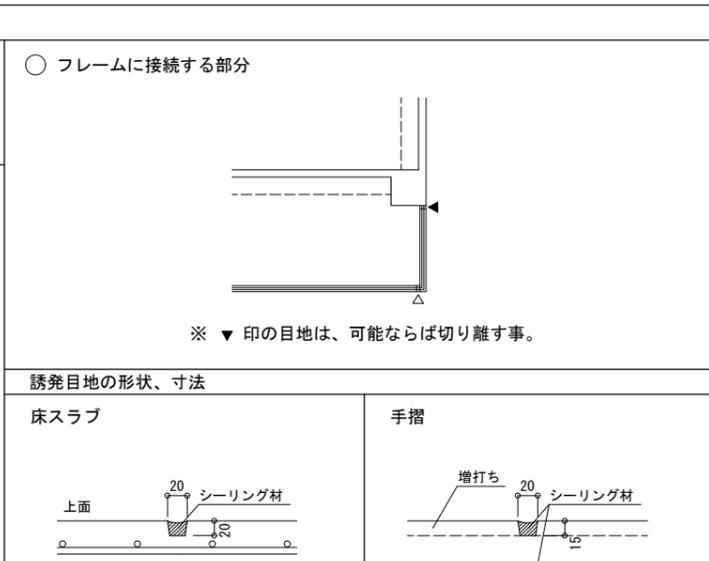
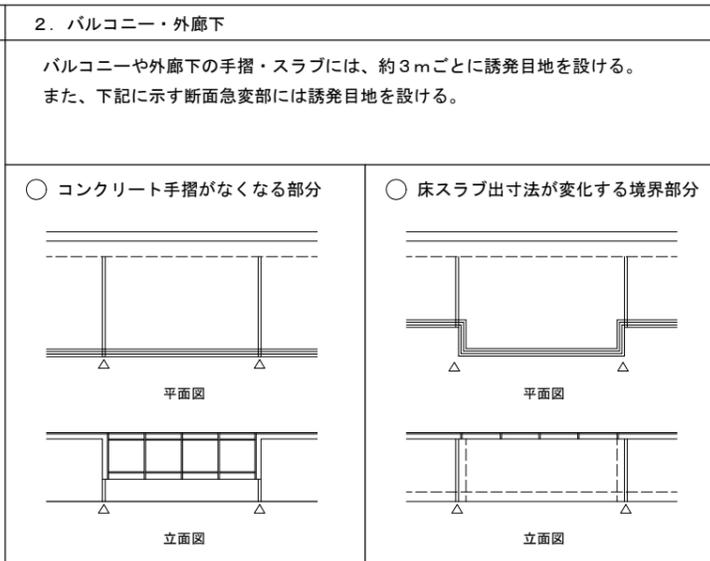
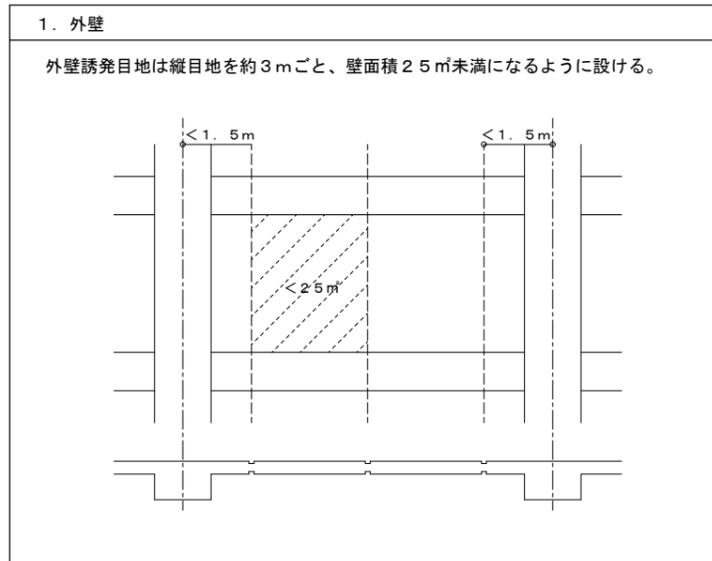


スラブ筋補強要領図 (①か②のどちらかとする)

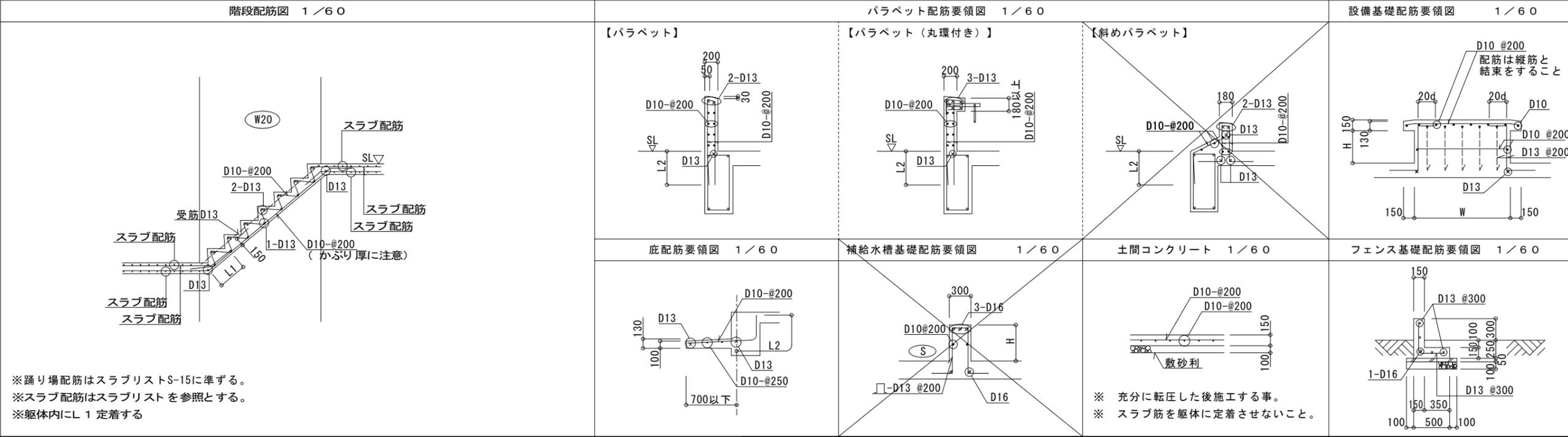


単独開口の場合の開口補強筋





- ### 4. 共通事項
1. 誘発目地位置は、施工前に工事監理者の承認を得ること。
 2. 誘発目地位置の鉄筋かぶり厚さについては十分に留意すること。



設備関係

- 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。設ける場合は設計者の承認を得ること。
- 設備機器の架台及び基礎については、風圧・地震力等に対して構造耐力上安全であること。
- 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を直径の3倍以上かつ5cm以上とする。
 - 令第129条の2の4の事項
 - ・建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。
 - ・建築設備（昇降機を除く。）、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとする。
 - ・屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。
 - ・煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とすること。

- ・煙突で、屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。
- ・建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
- ・建築物の部分を通ずる配管する場合には、当該貫通部分に配管スリーブを設ける有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。
- ・管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。
- ・管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。
- ・法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものにあつては、建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。

- ・給湯設備は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の振動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。満水時の質量が15kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上の支障のない構造として、平成12年建設省告示第1388号第5（最終改正：平成24年12月12日国土交通省告示第1447号）に規定する構造方法によること。
- * 建築物に設ける電気給湯器その他の給湯設備で、屋上水槽等のうち給湯設備に該当したものを除いたもの。
- ・設備配管は、地震時等の建物変形に追従できること。また、地震力等に対して適切に支持されていること。
- ・エレベーターの駆動装置等は、構造体に安全に緊結されていること。

構造設計 一級建築士 第354113号 佐藤 雅則

<p>PROJECT (仮称)練馬区関町北1MPJ 新築工事</p>	<p>OKWave</p>	<p>SIGN</p>	<p>訂正月日</p>	<p>DATE</p>	<p>特記事項</p>	<p>PROJECT NO</p>	<p>株式会社暁建設一級建築士事務所</p>
<p>TITLE 雑詳細図</p>	<p>SCALE 1 / NONSCALE</p>	<p>DATE 2023年 10月 16日</p>	<p>訂正月日</p>	<p>DATE</p>	<p>特記事項</p>	<p>SHEET NO S-20</p>	<p>1級建築士登録 第185063号 一級建築士 黒崎 信之</p>

